コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、樹の種類及び形態、含有物(有機質、異型など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鄙遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア検乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、発晶の種類・性、鉱物の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・横圧岩 ・岩種	破砕区分 ・記号(Hu,Hc,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鄙遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア検乱など	
448	154.60	156.18	B 堅硬、晩状で割れ目少ない。 155.25m以深で60～90°の高角度白色筋状の中着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	154.60	156.18	CH 堅硬、晩状で割れ目少ない。 155.25m以深で60～90°の高角度白色筋状の中着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。																			・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる) ・脈記の修正(単位の記載漏れ)
449	154.60	156.18	(岩級区分欄)B	154.60	156.18	(岩級区分欄)CH																			・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
450	155.25	155.25	70～80°割れ目で交差する一部の中着割れ目が切られている(変位不明)。	155.25	155.25	70～80°割れ目で交差する一部の中着割れ目が**止まっている。切られている(変位不明)**。70～80°の割れ目に細粒部は認められない。**周辺の岩盤**に原岩組織が見られ、系統的な割れ目は存在しない。																			・155.17m付近に高角度割れ目を横断する割れ目が見られるため「切られている」を「止まっている」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した
451	156.77	156.80	一部で緑泥石化しφ30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴なわない。	155.77	155.80	一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。**軟質**化は**伴わない**。																			・脈記の修正(156.77⇒155.77, 156.80⇒155.80) ・表現の適正化(伴う, mm, 軟質化)
452	156.00	156.14	自色筋状の中着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。	156.00	156.14	自色筋状の中着割れ目の一部が**剥離し**かかっているがよく密着している。																			・表現の適正化(剥がれ⇒剥離)
453	156.18	159.24	CH 堅硬、晩状、一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10～20cm(目)が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	156.18	159.24	CH 堅硬、晩状、一部に長さ20cm以上の柱状コアも**含む**が長さ10～20cm(目)が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。																			・表現の適正化(混じる⇒含む)
454	156.50	156.90	割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	156.50	156.90	18～80°の割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。																			・見られる割れ目の傾斜を追記した
455	157.00	－	157.00m以深は20～40°割れ目が主体。	－	－	－																			
456	157.35	157.89	わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	－	－	－																			
457	157.83	157.89	30°程度でφ2～3m/mの細緑灰色の緑泥石が弱く配列性をもって点在する。	157.83	157.89	30°程度でφ2～3mmの細緑灰色の緑泥石が弱く**斑状**に点在する。																			・表現の適正化(mm) ・斑状に分布するため記載を変更した
458	158.20	158.30	φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。	158.20	158.30	φ10mm前後の大型なカリ長石が点在。																			
459	158.54	158.62	158.54m と158.62m に70～75°厚1～2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。	158.54	158.62	158.54m と158.62m に70～75°幅1～2mmで石英**脈**が分布。よく密着し分離しない。																			・表現の適正化(mm)
460	158.54	－	158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み緑灰色を呈する。軟化は伴なわず堅硬である。	158.54	－	158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み緑灰色を呈する。軟**質**化は**伴わず**堅硬である。																			・表現の適正化(厚⇒幅, mm) ・石英脈であるため記載を変更した
461	159.24	160.40	B 堅硬、晩状で割れ目が少ない。 緑泥石化により緑緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目保在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み緑緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40	CH 堅硬、晩状で割れ目が少ない。 緑泥石化により緑緑色や白色筋状のゆ着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目保在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み緑緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。																			・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
462	159.24	160.40	(岩級区分欄)B	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH																			・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
463	159.45	159.45	60°割れ目が交差する45°ゆ着割れ目を切っている。 (見掛け変位量2m/m左ズレ)	159.45	159.45	60°割れ目が交差する45°ゆ着割れ目を**横断している。を切っている。** **(見掛け変位量2mm左ズレ)** **60°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。**																			・中着割れ目はズレていないため「切っている」を「横断する」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した
464	160.40	162.57	CH 堅硬、晩状、上下位に比べやゆ割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。	160.40	161.45	CM 堅硬、晩状、上下位に比べ**やや**ゆ割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。																			・割れ目がやや多い区間の下端深度を変更した ・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(やや)
465	160.40	161.45	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	160.40	161.45	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM																			・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
466	161.10	161.69	φ5m/m前後と大型な緑緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10～161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.69	φ5mm前後と大型な緑緑色の緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10～161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。																			・表現の適正化(「-」⇒の, mm)
467	161.70	161.90	割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。	161.70	161.90	**60°の割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。**																			・交差する割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(挟む)
468	162.12	162.18	φ10m/m前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。	162.12	162.18	φ10mm前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。																			・表現の適正化(mm)
469	162.46	162.57	80～90°のゆ着割れ目が5～20m/m間隔で平行に分布。 密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57	80～90°のゆ着割れ目が5～20mm間隔で平行に分布。 密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。																			・表現の適正化(mm)
470	162.57	166.65	B 堅硬、晩状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1～2m/mの白色筋状の中着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 中着割れ目には石英を挟状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは拘んど分布せずφ2～5m/mの斑点状などとして晶出している。	161.45	166.65	CH 堅硬、晩状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に**幅**1～2mmの白色筋状の**主に高角度**の中着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 中着割れ目には石英を挟状に**挟む**ものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目**沿い**では拘んど分布せずφ2～5mmの斑点状などとして晶出している。																			・割れ目が少なくなる区間の上端深度を変更した ・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる) ・中着割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(沿い, 挟む, mm, 厚⇒幅)
471	162.57	166.65	(岩級区分欄)B	162.57	166.65	(岩級区分欄)CH																			・脈記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
472	163.50	163.60	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉛鉱が晶出している。	163.50	163.60	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は**挟まない**。面の一部に**黄鉛鉱**が晶出している。																			・表現の適正化(挟む) ・脈記の修正(黄鉛鉱⇒黄鉄鉱)
473	164.00	164.30	φ10m/m以大型・橙色のカリ長石と同程・緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30	φ10mm以大型の橙色のカリ長石と同程の緑灰色の緑泥石が混在する。																			・表現の適正化(「-」⇒の, mm)
474	164.50	164.50	φ50m/m緑泥石晶洞、石英などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50	φ50mmの石英の晶洞、**長石**などの2次鉱物を伴っている。																			・表現の適正化(mm) ・晶洞状に分布するのは石英で、その中に分布する鉱物は長石であるため記載を変更した
475	164.94	164.94	70°密着割れ目上盤側に厚φ20m/m の石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。	164.94	164.94	70°密着割れ目**上盤**側に厚φ20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界に**変化はない**。																			・表現の適正化(mm) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。 ・文章の適正化
476	164.95	165.89	橙色のカリ長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。	164.95	165.89	橙色のカリ長石の含有**量**が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。																			・表現の適正化(含有⇒含有量)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示)											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層など記載事項に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵盤作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径・周囲の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱変質 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hd) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし高度も維持した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、葉理構造、鏡目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	変質の状況	鍵盤作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
477	165.32	165.32	70°　割れ目は165.32mで φ8m/mの橙色カリ長石を切断している。 また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位量2～5m/m左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。	165.32	165.32	70°　割れ目は165.32mで φ8mmの橙色カリ長石を**横断切断**している。 また交差する割れ目の一部も**止めている。切っている(見掛け変位量2～5mm左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。** **割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。**																								・切断しているとしたカリ長石は、割れ目を跨いで連続しているため「切断している」を「横断している」に、「切っている」を「止めている」に変更し、変位量についての記載を削除した ・鏡肌は見られないため削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・表現の適正化(mm)
478	165.80	166.10	φ10～20m/mの石英が多く晶出している。 一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	φ10～20mmの石英が多く晶出している。 一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。																				・表現の適正化(mm)
479	166.44	166.47	φ10m/m既状～長20～30m/m×幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	φ10mm既状～長20～30mm×幅5mmのレンズ状で石英が晶出。																				・表現の適正化(mm)
480	166.65	167.21	CH 一部でやゝ割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	CH 一部でやや**高角度**割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。																				・多い割れ目は高角度割れ目であるため追記した ・表現の適正化(やや)
481	167.00		167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	－	－	－																				
482	167.21	167.55	CM 白色筋状の中着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	CM 白色筋状の中着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。																				・下起の変更に伴い、下端深度を変更した ・表現の適正化(やや)
483	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM																				・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上起の変更に伴い、岩級を変更した
484	167.55	169.66	CH 堅硬、槌状で、コア長10cm以上の長柱状コアも含むが、10～20m/mの柱状コア主体。 白色筋状の中着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2～3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目や中着割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	168.22	169.66	CH 堅硬、槌状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10～20cmの柱状コア主体。 白色筋状の中着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2～3mm暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目や中着割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。																				・表現の適正化(mm)
485	168.22	169.66	(コアの形状欄)Ⅲランク	168.22	169.66	(コアの形状欄)Ⅱランク																				・割れ目がほとんど分布しないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した
486	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟化は伴なわず堅硬。	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 **軟質化は伴わず**堅硬。																				・表現の適正化(軟質化、伴う)
487	169.50	－	169.50m以深、φ2～3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.50	－	169.50m以深、φ2～3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。																				・表現の適正化(mm)
488	169.66	172.69	B 堅硬、槌状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状の中着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	CH 堅硬、槌状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状の中着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。																				・振記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
489	169.66	172.69	(岩級区分欄)B	169.66	172.69	(岩級区分欄)CH																				
490	169.67	170.22	φ2～3m/mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	φ2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出。																				・振記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
491	170.20	170.65	60～70°　の中着割れ目が散在分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	－	－	－																				・表現の適正化(mm、助詞の追加)
492	171.00	171.08	φ10m/mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。	171.00	171.08	φ10mmの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。																				
493	171.29	171.29	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	38°とβ37°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。																				・表現の適正化(mm) ・交差する割れ目の傾斜を追記した
494	171.85	171.85	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	34°とγ74°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。																				・交差する割れ目の傾斜を追記した
495	172.32	172.53	φ2～3m/m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5～1m/m石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。	172.32	172.53	φ2～3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5～1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。																				・表現の適正化(mm)
496	172.69	174.13	CH 堅硬、槌状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10～20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目や中着割れ目にそって細斑状～φ1～3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ほぼ含まない。細斑部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	CH 堅硬、槌状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10～20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目や中着割れ目に**沿って**細斑状～φ1～3mmの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土は**挟まない**。細斑部には石英を伴うこともある。																				・表現の適正化(沿い、挟む、mm)
497	173.66	176.73	密着度の低い中着割れ目10～20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。	173.66	173.73	密着度の低い**潜在**割れ目10～20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。																				・表現の適正化(mm) ・振記の修正(176.73⇒173.73、中着割れ目密集部の下端深度) ・表現の適正化(mm) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため追記した
498	173.93	173.93	43°割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。	173.93	173.93	43°割れ目はφ5mmの橙色カリ長石を**横断**する。 また、43°の割れ目と交差する**条の高角度の中着**割れ目が見られる。**切っている。** **割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。**																				・カリ長石は割れ目を跨いで連続しているため「切っている」を「横断する」に変更した ・43°割れ目と交差する2条の中着割れ目が見られるため追記した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・表現の適正化(mm)
499	174.13	175.55	B 堅硬、槌状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の中着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位例に比べ緑泥石化は弱くなる。	174.13	175.55	CH 堅硬、槌状で一部の割れ目交差部で**コア**長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の中着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位例に比べ緑泥石化は弱くなる。																				・振記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる) ・表現の適正化(区間⇒コア、助詞の追加)
500	174.13	175.55	(岩級区分欄)B	174.13	175.55	(岩級区分欄)CH																				・振記の修正(岩級区分要素の組合わせからCH級となる)
501	175.15	175.22	割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟在物は分布しない。	175.15	175.22	70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟在物は分布しない。																				・交差する割れ目の傾斜を追記した ・振記の修正(挟在物⇒挟在物)
502	175.55	176.50	CH 堅硬、上下位に比べやゝ割れ目が多いがコア長10cm～20cm(目)が主体。中着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	175.55	176.50	CH 堅硬、上下位に比べ**やや**割れ目が多いがコア長10cm～20cm(目)が主体。中着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。																				・表現の適正化(やや、単位の削除)
503	175.45	175.71	175.45～175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟在物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。	175.45	175.71	175.45～175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟在物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。**割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。**																				・割れ目及び周辺の状況について追記した ・振記の修正(挟在物⇒挟在物)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名 H27-B-3

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、見分など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鋭進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と比況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・硬、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統等の代表的な割れ目の見かけの傾斜や鉄皮物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のペリ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱変岩 ・岩理	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hi） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・岩盤組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、複合面構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鋭進作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
504	175.71	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状～一部岩片状を呈する。	176.50	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状～一部岩片状を呈する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（175.71→176.50、CM級の上端深度）
505	176.50	176.78	（岩級区分欄）CM	176.50	176.78	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に合めた
506	175.59	175.62	30°割れ目ぞいに風化（γ）、軟化（D）、砂状～粘土状部はほとまない。	176.59	176.62	30°割れ目沿いに風化（γ）、軟質化（D）、砂状～粘土状部は狭まない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（175.59→176.59、175.62→176.62） ・表現の適正化（沿い、軟質化、挟む）
507	176.78	179.15	B 堅硬、棒状でコア長20cm以上の棒状コア主体。一部に含まれる中着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2～5m/m暗緑灰色斑点状～厚さ0.5m/m細断状で分布する。細断状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	176.78	179.15	CH 堅硬、棒状でコア長20cm以上の棒状コア主体。一部に含まれる中着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2～5mm暗緑灰色斑点状～厚さ0.5mm細断状で分布する。細断状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。								-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（岩級区分要素の組合わせからCH級となる） ・表現の適正化（mm）
508	176.78	179.15	（岩級区分欄）B	176.78	179.15	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（岩級区分要素の組合わせからCH級となる）
509	177.65	177.65	35°厚さ2～3m/mの石英脈が分布、周囲と同化している。	177.65	177.65	35°厚さ2～3mmの石英脈が分布、周囲と同化している。								-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
510	177.83	178.27	間には φ5～10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	177.83	178.27	間には φ5～10mmと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
511	178.31	178.39	上端75°、下端70°割れ目に面まれ厚さ25m/m、φ5～10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。	178.31	178.39	上端75°、下端70°割れ目に面まれ厚さ25mm、φ5～10mmに細片化している。厚さは25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
512	178.45	－	178.45m以深には中着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	－	－	－								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
513	179.15	180.00	CH 179.37～179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で鉄在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 中着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。	179.15	180.00	CM 179.37～179.68m間の一部は15～57°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で鉄在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 中着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・交差する割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化（助詞の追加）
514	179.15	180.00	（コアの形状欄）III ランク （岩級区分欄）CH	179.15	180.00	（コアの形状欄）IV ランク （岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した

H27－B－4

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名 H27-B-4

○ 記載漏り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　— 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは"-"で表示)												破砕等								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を明確的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、級化など	鉱成作業における特記事項・コアカタログ、コア接続など	地質名・岩種及びその区間深度を明確的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・岩石組織の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や接在物の種類を明確的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がある時、割れ目の間隔、間口幅、割れ目面の色調、割れ面のすべり(大リッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱隆岩・岩種	破砕度区分・記号(H1/H2/H3)・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅(実際できる場合)	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・粗粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・組状構造、複合断層構造、変質帯構造、断目状粘土など	最新活動面(認知した場合)	空隙の状況	鉱成作業における特記事項・コアカタログ、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
1	-	-	-	0.00	13.75	盛土			-	-	-															・地質名に合わせて盛土の区間を追記した
2	0.00	0.33		0.00	0.33	表(盛土) φ5~50mmの角礫からなる、岩種は砂質頁岩。			○	-	-															・地質名を追記した ・文章の適正化(より成る⇒からなる)
3	0.33	3.10		0.33	3.10	礫混じり砂(盛土) φ2~20mm程度の花崗岩質、アプライト、頁岩などの礫(角礫~亜円礫)を含む。最大径40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.33~1.00mが14.6%粘土分が多かく 粘じて緩く コアは指圧で容易に凹む。			○	-	-															・地質名を追記した ・盛土、礫率について追記した ・表現の適正化(max)
4	3.10	6.30		3.10	6.30	砂質礫(盛土) 細分が多くなる。礫種は花崗岩質、アプライト の他、高色の砂質頁岩やコンクリート片を混じる φ10~100mmの角礫~亜角礫が多い 基質は細礫及び粗砂からなる			○	-	-															・地質名を追記した ・粒記の修正(礫種⇒礫種、高色⇒高色) ・アプライトも花崗岩質のため削除した ・基質について追記した	
5	3.30	3.58	コンクリート片	-	-	-			○	-	-															
6	3.70	4.00	この間基質は流失ぎみ。	3.70	4.00	この間基質は流失ぎみ。 全体にルーズ			○	-	-															・締まり具合について追記した
7	4.00	8.00	花崗岩、花崗閃岩、アプライト等の花崗岩質の礫を多く含む。他、高色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径は φ10~50mmが多く φ100mm 基質は細礫+粗砂	4.00	8.00	花崗岩、花崗閃岩、アプライト等の花崗岩質の礫を多く含む。他、高色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径は φ10~50mmが多く φ100mm 基質は細礫+粗砂			-	-	-															・φ10~φ30mmの記事に含めて削除した
8	5.73	6.00	基質はやや流失ぎみ。	-	-	-			○	-	-															
9	6.30	7.00	砂(粗砂)が主体となる。花崗岩質のφ5~20mmの角礫を含み、まれに少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に比べて、良(締っている。	6.30	7.00	礫混じり砂(盛土) 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩質のφ5~20mmの角礫を5%以下で含み、極めて少量のφ10mmは下の頁岩角礫を含む。下位の盛土に比べて良(締っている。			○	-	-															・地質名を追記した ・礫率を追記した ・表現の適正化(極めて、比べて)	
10	7.00	7.45	Auの巨礫、頁岩の残積岩片を含む。	7.00	7.45	Auの巨礫、頁岩の残積岩片を含む。	○	○	○	-	-															・高色の礫状のものは、マンガン凝集部であり、頁岩の残積岩ではないため削除した
11	7.45	7.70	硬った細礫を含む砂(粗砂)	7.45	7.70	花崗岩質、頁岩の角~亜角礫の細礫を1%程度含む締った砂(粗砂)			○	-	-															・岩種、礫の形状、礫率について追記した ・粒記の修正(硬った⇒締った) ・文章の構成を修正した
12	7.70	8.00	花崗岩質の細~中礫が主体、締った粗砂を含む。	7.70	8.00	砂質礫(盛土) 花崗岩質の角礫の細~中礫が主体、締った粗砂を含む。			○	-	-															・地質名を追記した ・礫の形状について追記した
13	8.00	8.20	砂(粗砂)が主体となる	8.00	8.20	礫混じり砂(盛土) 砂(粗砂)が主体となる φ10mm以下の花崗岩質の角礫を含み、φ5mm以下の頁岩の亜角~亜円礫をごく少量含む。やや締っている。			○	-	-															・地質名を追記した ・含有礫について追記した ・締まり具合について追記した
14	8.20	-	花崗岩質のφ10~50mmの角~角角礫が主体、大型の礫はAuがやや目立つ。max φ70mm 少量の高色の頁岩礫が散在する。	8.20	13.75	砂質礫(盛土) 花崗岩質のφ10~50mmの角~亜角礫が主体、大型の礫はAuがやや目立つ。最大φ70mm 少量の高色の頁岩礫が散在する。 基質は細礫&粗砂			○	-	-															・下端深度を追記した ・地質名を追記した ・粒記の修正(角角⇒亜角、小量⇒少量) ・基質について追記した ・表現の適正化(max)
15	10.16	10.15	細分炭化した長さ100mmの木片を含む。	-	-	-			○	-	-															
16	11.03	11.52	含有礫は総じて小さ(中礫以下。	11.03	11.52	含有礫は上下位に比べて小さくなる			○	-	-															・表現の適正化
17	12.05	12.20	Auの大礫。	-	-	-			○	-	-															
18	12.04	12.04	木片混じる	12.24	12.24	木片混じる			○	-	-															・粒記の修正(12.04⇒12.24)
19	12.51	12.63	細分炭化した木片混じる	-	-	-			○	-	-															
20	13.65	13.75	木片混じりる。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。	13.65	13.75	木片混じりる。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。			○	-	-															・粒記の修正(混じりる⇒混じる)
21	-	-	-	13.75	140.00	花崗閃岩 堆積物との境界は45°で明瞭 特々 岩品が少なくアプライト様を呈する部分を含む。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名を追記した ・堆積物との境界について追記した ・花崗閃岩の岩種について追記した
22	13.75	14.67	風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
23	14.24	14.24	付近、割れ目にはMnマンガンの汚染が顕著	14.24	14.24	付近、45°割れ目にはMnマンガンの汚染が顕著								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜について追記した
24	14.53	14.53	付近、頁岩礫3ケ、上部からの異種物と思われる	14.53	14.53	付近、頁岩礫3個、上部からの異種物と思われる								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・表現の適正化(3ケ)
25	14.67	-	風化は若干軟質となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質部が白く見られるものがある。	14.67	15.49	風化は若干軟質となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質部が白く見られるものがある。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・下端深度を追記した
26	15.00	15.49	低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。	15.06	15.30	15.06m、15.09mにはそれぞれ45°、55°の割れ目沿いに2~3mmのマンガンを伴う。 15.30mは深度30°程度の低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間深度を変更した ・割れ目の傾斜について追記した ・細粒物の色調を追記した ・マンガンの状態は周囲と異なる状況であるため追記した
27	15.00	15.91	(変質帯)コランク	15.00	15.91	(変質帯)コランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上位と差がないため変質帯のランクを2ランクに変更した
28	15.52	15.60	棒状コア、多くは上部からの異種物と思われる。	15.49	15.62	棒状コア、~~多くは上部からの異種物と思われる。~~								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間深度を変更した ・異種物と断定できないため削除した
29	15.60	13.91	割れ目沿いの劣化が著しく鉄錆	15.62	13.91	30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく鉄錆								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上記に合わせて上端深度を変更した ・割れ目の傾斜について追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名 H27-B-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは"-"で表示）													破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	被積構造 ・層理、葉理、級化など	堆積作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・個、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質特徴 ・粒度構成、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・非結晶の代表的な割れ目の見かけの傾斜や特定物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	被積構造	礫種等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・非結晶の代表的な割れ目の見かけの傾斜や特定物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	堆積岩 ・岩種	破砕区分 ・記号（H₁,H₂,H₃） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・組状構造、斑合構造、系列構造、網目状結土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	堆積作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
30	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンで汚染される	15.91	16.36	破砕部である。全体にマンガンで汚染される									-	-	-								-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）
31	15.91	15.91	上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚32～6mmで見られる。	15.91	15.91	上端72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚32～6mmで見られる。 やや軟質であり、粘土はコアの中軸付近でせん滅する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-		○						-	-	・粘土の硬軟、連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した
32	－	－	－	15.91	16.33	上端72°でやや湾曲して連続、下端不明瞭。粘土混じり礫状～粘土質礫状(H₂)を呈する。径2～20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリーブ黄色を呈する。やや軟質、割れ目に沿って細粒部を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭ながらも原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・破砕度区分毎の記載を追記した
33	－	－	－	16.33	16.36	上端不明瞭、下端76°で波打って連続。灰白色の粘土状～礫混じり粘土状(H₂-1)を呈する。径2～5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。厚さ25mm。粘土は軟質で連続性が乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-		○						-	-	・破砕度区分毎の記載を追記した
34	16.36	16.36	下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。	16.36	16.36	下端76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。最新活動面、粘土を伴い、最も連続性のある。									-	-	-								-	-	・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した ・最新活動面の深度と性状を追記した
35	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。						○	○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）
36	16.52	48.20	（変質帯）3ランク	16.52	48.20	（変質帯）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・15m以浅と差がないため変質のランクを2ランクに変更した
37	16.52	17.03	割れ目沿いの劣化は顕著で一部硬～砂状となる	16.52	17.03	40～60°の割れ目沿いの劣化は顕著で一部硬～砂状となる									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜について追記した
38	17.03	17.86	低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	20°程度の低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜について追記した
39	17.86	18.00	コア表面のザラつきは微分程度。	17.86	18.52	コア表面のザラつきは微分程度。 20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下端深度を変更し、その区間に見られる低角度の割れ目について追記した
40	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	~~18.00~~	~~19.08~~	~~低角度の微細な割れ目が非常に多い~~									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記事に含めて削除した
41	－	－	－	18.52	24.55	30～60°の中角度の割れ目が主体。割れ目に沿った褐色化が認められる。斜長石の風化し軟質となった比較的大型の岩品が目立つ。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目沿いの褐色化が周囲と異なる状況であるため追記し、当該区間に見られる斜長石の岩品の特徴を追記した
42	18.70	20.00	斜長石の風化し軟質となった比較的大型の岩品が目立つ	~~18.70~~	~~20.00~~	~~斜長石の風化し軟質となった比較的大型の岩品が目立つ~~									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記事に含めて削除した
43	19.57	19.76	硬状コアが主体となる	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
44	20.02	20.02	付近、きわめて小規模な破砕帯（変質帯）割10～20mm、50°	20.02	20.02	付近、きわめて小規模な破砕部（変質部）幅10～20mm、50°、途中でせん滅している。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部、変質帯→変質部） ・脈記の修正（割⇒幅） ・破砕部の連続性について追記した ・連続性に乏しいため破砕部ではないと判断して「破砕部」を削除した
45	20.07	20.07	小規模な破砕帯（変質帯）幅10～40mm、角度30°	20.07	20.07	小規模な破砕部（変質部）幅10～40mm、角度30° 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部、変質帯→変質部） ・破砕部とした箇所の周辺岩盤の状況について追記した。 ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕部」を削除した
46	20.23	20.37	割れ目沿いに一部細粒状となる。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
47	20.55	20.55	硬状となる。	20.55	20.65	硬状となる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（上端の20.56⇒20.55、下端の20.55⇒20.65）
48	20.87	20.94	硬状となる。	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
49	21.35	21.50	微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭	21.18	21.50	微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・21.18m以深にもマンガン汚染が見られるため上端深度を変更した
50	21.50	22.47	割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
51	21.85	22.18	（岩級区分種）CM	21.85	22.18	（岩級区分種）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
52	22.47	22.55	硬状コア、一部は上部から原植物も含まれていると思われる。	22.47	22.55	硬状コア、一部は上部から原植物も含まれていると思われる。コア引き上げ時のコアの接続部である。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・原植物ではなく、コア引き上げ時のコアの接続による硬状化であるため記載を変更した
53	23.39	－	コアは軟質となり、表面はザラつく	23.38	24.55	コアは軟質となり、表面はザラつく									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・軟質化している区間を追記した ・脈記の修正（23.39⇒23.38）
54	24.13	24.55	落下したコアを再採取したものと思われる。	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
55	－	－	－	24.55	25.48	コア欠如						-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・コア欠如区間を追記した
56	－	－	－	25.48	27.22	全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・長石の白濁化は周囲と異なる状況であるため追記した
57	25.96	26.19	コアは軟質で表面のザラつきが大きい	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
58	26.40	26.47	割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
59	26.96	27.22	岩質が軟質で脆弱である	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60	27.22	27.22	剪断性の割れ目、変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質、角度40°、N7E,64W	27.22	27.22	せん断性の割れ目、変質も加わり上端側は明黄褐色(2.5Y6/6)で幅20mm軟質、面は凹凸があり、その噛み合わせは悪い。軟質部は連続せず、周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下端側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。角度40°、N7E,64W									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。 ・緑褐色という色名は「剪断　標準土色帖」にない名称であるため、土色帖にある名称に変更した。 ・軟質部及び原岩盤の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した ・走向傾斜は、コア観察からは得られない情報であるため削除した
61	27.38	27.85	（岩級区分種）CM	27.38	27.85	（岩級区分種）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
62	27.95	28.00	剪断性の鉱理が局所的に集中し脆弱となる	27.95	28.00	せん断性の鉱理が局所的に集中し脆弱となる。鉱理沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず、脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・せん断を示唆する状況が見られない。 ・鉱理沿いの細粒部の連続性及び脆弱部の原岩組織の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
			記事	記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）													破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・海蝕や細かい互層などを記事欄に記載	色調・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・熱変質痕、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造（層理、葉理、級化など）	鍵遠作業における特記事項・コア欠如、コア接続など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、斑晶の種類・径、斑晶の含有率などを記載	色調・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	粒理等の別れ目・同系統の別れ目の見かけの傾斜や検査時の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な別れ目があれば、別れ目の間隔、開口幅、別れ目面の色調、別れ目面のテペ（スリケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被覆岩・岩種	破砕度区分・記号（HL/Mb/Hb）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・線状構造、複合面構造、葉等構造、網目状粘土など	最新活動面（設定した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
63	－	－	－	28.10	28.10	傾斜60°、幅5～12mmのアプライト細脈を挟む。境界面は中着している。								－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・アプライト脈は周囲と異なる状況であるため追記した
64	28.24	28.24	低角度で幅10mm砂～礫状となる。上下盤はシャープ。	28.24	28.24	25°程度で幅10mm砂～礫状となる。上下盤はシャープ。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・低角度を具体的な数値に変更した ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。
65	29.48	29.91	微細な別れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m～ 微細な別れ目はマンガンに汚染される。	29.48	29.91	微細な別れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m～29.91m 微細な別れ目はマンガンに汚染される								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・微細の別れ目が集中する下端深度を追記した
66	29.60	29.70	剪断性の節理が卓越する。	29.60	29.70	せん断性の節理が卓越する。節理は全体にマンガン汚染により黒色化し、節理には細粒部が認められず、節理が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また、節理が卓越する区間及び隣辺の岩盤には原岩組織が認められる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断） ・節理が卓越する区間の状況及びその中に分布する石英脈、隣辺岩盤の状況について追記した ・追記した理由からせん断性別れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
67	－	－	－	29.65	29.65	傾斜45°、幅1～3mmの石英脈を挟む。								－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
68	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯 上盤70°白色粘土2mm、下盤67°マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。	29.74	29.78	ごく小規模な破砕部 上端70°白色粘土幅2mm、下端67°マンガン汚染顕著。いずれも直線的に連続する。上端側は幅10mmで一部で変質を伴う。幅2～20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。やや軟質な粘土混じり微状破砕部（※）。含まれる白色粘土は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。最新活動面は上端か下端の可能性がある。にぶい橙色を呈する。幅23mm。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・用語の統一（破砕等～破砕部） ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・硬軟、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、最新活動面、色調、異端について追記した ・転記の修正（幅）の記載漏れ）
69	30.10	30.69	低角度の別れ目が優勢である。	30.10	30.69	25°前後の別れ目も見られる								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・低角度を具体的な数値に変更した ・優勢というほど低角度の別れ目頻度は高くないため表現を変更した
70	30.62	30.73	この間、やや不規則な形状の高角度の別れ目が2条見られ、マンガンが3～5mmの厚さで胚出している。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
71	31.77	31.93	やや低角度の微細な別れ目が、ほぼ平行に密集する。	31.77	31.93	25°前後の微細な別れ目が、ほぼ平行に密集する。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・やや低角度を具体的な数値に変更した
72	31.87	31.91	剪断を受ける。上盤45°暗緑灰色の粘土～シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。	31.87	31.91	せん断を受けた。上端45°暗緑灰色の粘土～シルトを3mm伴う。下端40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である。 含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な別れ目も存在しない。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断） ・せん断を伴なう状況が見られない。 ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・含まれる細粒部の連続性、軟質な区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な別れ目の有無について追記した ・上記及び追記した理由からせん断を受けていないと判断して「せん断を受ける」を削除した
73	32.00	33.00	（最大コア長欄）10	32.00	33.00	（最大コア長欄）12								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・最大コア長が12cmのところが認められるため修正した
74	－	－	－	32.05	32.72	別れ目沿いの脱色汚染が目立つ								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脱色汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
75	32.36	32.39	20°～30°程度の剪断性の節理が平行して集中する	32.36	32.39	20°～30°程度のせん断性の節理が平行して集中する。上端・下端の節理はマンガン汚染により黒色化しているが、節理には細粒部が認められず、節理間辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な別れ目も存在しない。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断） ・せん断を伴なう状況が見られない ・節理に伴なう細粒部、節理間辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な別れ目の有無について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性節理ではないと判断して「せん断性」を削除した
76	32.68	32.73	30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑レン石の薄い筋が3条見られる	32.68	32.73	30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑泥石の薄い筋が3条見られる								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・緑泥石であるため変更した ・転記の修正（ほぼ）
77	33.00	33.62	30～50°の別れ目が優勢。別れ目に沿って明瞭な変化が見られるものが多い。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
78	－	－	－	33.00	33.46	33.00m、33.46mの別れ目には幅2～5mm程度で緑色化が見られる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
79	－	－	－	33.30	33.30	33.30mの別れ目には幅1～3mmの灰白色粘土化が見られる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・灰白色粘土化は周囲と異なる状況であるため追記した
80	－	－	－	34.11	34.22	不規則な微細な別れ目が多い								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・不規則な別れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
81	－	－	－	34.22	34.22	傾斜65°、幅8mmの石英脈を挟む。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
82	34.30	34.42	別れ目が集中し、微～岩片状コアとなる。人為的？	34.30	34.42	コアチューブ引き上げ時の接近により、機械別れ目が集中し、微～岩片状コアとなる。								－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	・コアチューブ引き上げ部により、機械別れが発生していたため人為的なものと判断した
83	34.55	34.55	付近、局所的（連続しない）に低角度で破砕され細粒状となる	34.55	34.55	付近、局所的（連続しない）に傾斜38°で破砕され細粒状となる。細粒状部は中でせん断し、連続性に乏しく、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な別れ目も存在しない。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・低角度を具体的な数値に変更した ・細粒状部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な別れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断し「破砕さ」を削除した
84	－	－	－	34.78	34.78	傾斜50°、幅1mm以下の石英脈を挟む。								－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
85	－	－	－	34.79	34.79	傾斜50°、幅1mm以下の石英脈を挟む。 別れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。								－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈及び灰白色粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
86	－	－	－	35.32	35.32	傾斜40°、幅2～3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びている。								－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈及び赤味を帯びることについては周囲と異なる状況であるため追記した
87	35.60	35.78	低角度のほぼ平行した別れ目が集中し、破砕となる。別れ目沿いに白色の鉱物脈が見られる所が多い。	35.60	35.78	35°程度のほぼ平行した別れ目が集中し、破砕となる。別れ目沿いに白色～灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・低角度を具体的な数値に変更した ・色調を追記した ・鉱物脈としたものはやや硬質な粘土質であるため粘土脈に変更した
88	35.72	35.72	付近、剪断破砕を局所的に受け、硬状となる	35.72	35.72	付近、せん断破砕を局所的に受け、硬状となる。挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70～35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な別れ目も存在しない。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断） ・せん断を伴なう状況が見られない ・挟在物の連続性、35.70～35.72m間及び周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な別れ目の有無について追記した ・上記及び追記した理由から破砕部ではないと判断して「せん断破砕を局所的に受け」を削除した
89	－	－	－	35.78	39.40	別れ目沿いの脱色及びマンガン汚染が目立つ。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脱色汚染、マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
90	35.78	37.36	（別れ目状態欄）ランク（岩級区分欄）CL	35.78	37.36	（別れ目状態欄）ランク（岩級区分欄）CM								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目に挟在物を伴わないことが多いため別れ目状態のランクをCLからCMに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
91	36.14	36.35	この間別れ目がやや卓越する	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
92	－	－	－	36.25	37.20	傾斜70°以上の高角度別れ目も見られる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度別れ目は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名 H27-B-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を赤書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、模の種類及び形状、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海決度、含水状態などを記載。	現場構造 ・層理、葉理、級化など	鉱床作業における特記事項 ・コア欠如、コア撹乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、既存の種類・径、既存の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	堆理等の跡礼目 ・同系統の跡礼目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡礼目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡礼目があれば、跡礼目の間隔、開口幅、跡礼目面の色調、跡礼目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・捕獲岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号（H_0,H_1,H_2） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統状構造、複合基構造、非等構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱床作業における特記事項 ・コア欠如、コア撹乱など	記事を削除・変更・追記した理由
93	－	－	－	36.85	39.40	傾斜50～70°の跡礼目が主体																				・傾斜50～70°跡礼目が主体となるのは周囲と異なる状況であるため追記した
94	36.96	37.10	高角度の跡礼目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫～砂状となる。	36.96	37.10	75°の跡礼目に沿って劣化する。厚さ12mmで白色化し、細礫～砂状となる。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度を具体的な数値に変更した ・白色化していることについて追記した
95	37.36	37.36	25°の跡礼目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる（流入？）	37.36	37.36	25°の跡礼目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる（流入？）										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・流入物であるため「？」を削除した
96	37.36	37.98	跡礼目の汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	37.36	37.98	跡礼目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・汚染について具体的に追記した
97	37.98	38.08	跡礼目状態標:cランク	37.98	38.08	跡礼目状態標:bランク										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴わないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
98	37.98	38.27	（岩級区分標）CM	37.98	38.27	（岩級区分標）CH										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
99	38.08	38.27	（コアの形状標）Ⅳランク	38.08	38.27	（コアの形状標）Ⅲランク										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・38.21mの人為的な跡礼目を除外してコアの形状のランクをⅢランクに変更した
100	38.08	38.96	挟在物が見られる跡礼目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。	38.08	38.96	挟在物が見られる跡礼目は、38.53mの70°のものが1条のみ。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度を具体的な数値に変更した
101	38.96	38.96	～、跡礼目に沿って劣化するものが多い	38.96	38.96	以深、跡礼目に沿って劣化するものが多い										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・「～」を「以深」に変更した
102	38.96	39.40	（岩級区分標）CL	38.96	39.40	（岩級区分標）CM										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
103	39.10	39.40	（コアの硬さ標）Cランク	39.10	39.40	（コアの硬さ標）Bランク										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・39.40m以深と同等のコアの硬さであるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
104	39.21	39.21	跡礼目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	－	－	－										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
105	39.60	39.65	跡礼目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	－	－	－										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
106	40.64	40.93	跡礼目沿いの劣化が顕著。跡礼目沿いの劣化が明瞭、砂～細礫となる所が多い。跡礼目沿いに変質している。	40.64	40.93	不規則な跡礼目が卓越し、跡礼目沿いの劣化が明瞭。灰白色～黄褐色の砂～細礫となる所が多い。跡礼目沿いに変質している。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目の系統について追記した ・色調を追記した
107	40.95	41.00	跡礼目沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	跡礼目に沿って劣化。細礫状となる。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて上端深度を変更した ・掘記の修正（跡礼目沿って⇒跡礼目に沿って）
108	41.00	41.20	低角度と高角度の跡礼目が交叉し、亀甲状となる。跡礼目沿いに劣化が見られるものが多い	41.00	41.20	低角度と高角度の跡礼目が交差し、亀甲状となる。跡礼目沿いに劣化が見られるものが多い										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（交叉⇒交差）
109	41.37	41.47	ほぼ平行な跡礼目が集中、跡礼目沿いの劣化が明瞭で挟弱。	41.37	41.47	ほぼ平行な40°前後の跡礼目が集中、跡礼目沿いの劣化が明瞭で挟弱。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目の傾斜について追記した
110	41.80	41.91	跡礼目沿いの劣化が顕著で非常に挟弱である。	41.80	41.91	跡礼目沿いの劣化が顕著で非常に挟弱である。変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・劣化の具体的な状況を追記した
111	－	－	－	42.12	42.12	傾斜40°　幅2mmの黄褐色粘土を挟む。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・黄褐色の粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
112	42.12	42.25	跡礼目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし。鏡肌なし。	42.12	42.25	跡礼目に沿った劣化が顕著。一部硬質な砂状となる。粘土なし。鏡肌なし。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（固結⇒硬質）
113	42.35	42.35	25°と跡礼目に厚さ2～3mmのマンガン挟在	42.35	42.35	25°の跡礼目に厚さ2～3mmのマンガン挟在										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・掘記の修正（25°と⇒25°の）
114	42.38	42.46	局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。	42.38	42.46	局所的に硬質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。										なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（固結⇒硬質）
115	43.05	43.05	剪断破砕をごく小規模に受ける。角度32°、幅10mm。上盤は粗1～2mmの石英脈を伴う。下盤は灰白色粘土幅2mm。灰白色粘土は分離し、直線性に乏しい。	43.05	43.05	せん断破砕をごく小規模に受ける。角度32°、幅10mm。上盤は粗1～2mmの石英脈を伴う。下盤は灰白色粘土幅2mm。灰白色粘土は分離し、直線性に乏しい。										○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断） ・せん断を示唆する状況が見られない ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・石英脈の幅について追記した ・粘土の色調を追記した ・挟在する粘土の直線性について追記した ・粘土が分離し直線性に乏しいことからせん断破砕を受けていないと判断して「せん断破砕をごく小規模に受ける」を削除した ・掘記の修正（「幅」の記載漏れ）
116	43.05	43.15	（岩級区分標）D	43.05	43.15	（岩級区分標）CL										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
117	43.06	43.15	岩片状コア。（人為的なものを含む）	43.06	43.15	コアチューブ引き上げ時の擦記による岩片状コア。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡礼目も存在しない。										－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	・人為的なものを具体的に記載した ・原岩組織の有無及び系統的な跡礼目の有無について追記した
118	43.54	43.65	変質及び風化のみ、挟弱となる。43.63m　白色の変質脈。粘土化はしていないが軟質。	43.54	43.65	変質及び風化のみ、挟弱となる。43.63m　幅1.5mm程度の白色の変質脈。粘土化はしていないが軟質。										なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・変質脈の幅を追記した
119	43.80	43.21	低角度の跡礼目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。	43.80	44.21	20～30°の跡礼目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・掘記の修正（43.21⇒44.21） ・低角度を具体的な数値に変更した
120	44.46	44.46	42°の跡礼目に沿って褐色汚染顕。周辺には綿雲母と白鉄鉱（黄鉄鉱の分解途中）が散在し光る。	44.46	44.46	42°の跡礼目に沿って褐色汚染顕著。周辺には綿雲母と白鉄鉱（黄鉄鉱の分解途中）が散在し、幅5mm程度で褐色化している。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・掘記の修正（鉄⇒鉄鉱） ・白鉄鉱としたものは、中心の濃い褐色部が正方形に近い形状を呈するため黄鉄鉱であると判断して変更した。白鉄鉱は低温アルカリの環境で生成されるが、酸変サイトの熱水変質鉱物は中性～酸性の環境下の鉱物（石英、絹雲石、セリサイトなど）が一般的であるため、高温酸性の環境で生成される黄鉄鉱が妥当であると判断した ・鉱物が金ぴかしているわけではないが「光る」を削除した ・褐色化について追記した
121	44.70	44.94	（コアの硬さ標）Cランク （コアの形状標）Ⅳランク （跡礼目状態標）cランク	44.70	44.94	（コアの硬さ標）Bランク （コアの形状標）Ⅲランク （跡礼目状態標）bランク										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・掘側に比べて硬質で跡礼目も少なく挟在物も伴わないため、コアの硬さ、コアの形状、跡礼目状態のランクを変更した
122	44.94	45.21	（コアの形状標）Ⅳランク	44.94	45.21	（コアの形状標）Ⅴランク										－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・掘側より跡礼目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
123	45.10	45.10	剪断性の節理、上盤側は一部巾20mmで挟弱となる。綿雲母が散在し光る。	45.10	45.10	せん断性の節理、上端側は一部、幅20mmで挟弱となる。綿雲母が散在し、褐色化が著しい。節理に細粒部は認められず、節理の上位側の岩盤部は局所的に分布し、連続性に乏しい。また、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡礼目も存在しない。										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一（せん断、巾⇒幅） ・せん断を示唆する状況が見られない ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・鉱物が金ぴかしているわけではないが「光る」を削除した ・褐色化について追記した ・挟在する細粒部、節理の連続性、周辺盤の原岩組織の有無、系統的な跡礼目の有無について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した
124	45.42	45.62	微細な跡礼目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い	－	－	－										○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を赤書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、類因と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア復乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質特徴	岩種等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟種岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hs） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の根拠説 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・頻状構造、複合面構造、葉巻構造、網目状粘土など	最新活動面（設定した場合）	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア復乱など	
125	45.73	45.80	割れ目沿いに劣化し、腐状～砂状となる。	45.73	45.80	割れ目沿いに劣化し、黄褐色の腐状～砂状となる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・色調を追記した
126	46.10	46.35	60～70°の割れ目が集中する。挟在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
127	46.10	46.28	（コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）CL	46.10	46.28	（コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・周囲と同等のコアの硬さであるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
128	46.10	47.11	（割れ目状態）cランク	46.10	47.11	（割れ目状態）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・挟在物を伴わないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
129	47.11	47.32	幾細な割れ目が斜目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
130	47.36	47.53	高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが、砂状の挟在物が見られる。	47.36	47.53	高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが、砂状の挟在物が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化（交叉⇒交差）
131	47.53	47.76	（岩級区分欄）CM	47.53	47.76	（岩級区分欄）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
132	47.76	-	幾細な割れ目が卓越し、脆弱となる。	47.76	48.39	幾細な割れ目が卓越し、脆弱となる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・下端深度を追記した
133	47.76	47.88	47.76～47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
134	48.30	48.33	（破砕度区分欄）Hc-1	48.30	48.33	（破砕度区分欄）Hc-3									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・該当区間に破砕部は存在しないため脱記として削除した
135	48.38	48.38	破砕帯 上盤52°下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる	48.39	48.43	破砕部 上盤52°で直線的に、最新活動面、最も直線的な面。下盤45°～鋸波打って連続。幅30mmやや赤味を帯びる。 上端側は幅5～10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部（Hc-2）、下端側は幅12～20mmで灰白色を呈する構質砂状部（Hc-2）からなり、いずれも原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。全体に硬質で両者の境界は波打っている。									-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-		・用語の統一（破砕帯⇒破砕部） ・破砕部の区間深度をコアに合わせて変更した ・上端・下端境界の性状について追記した ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・破砕部内物質、真幅、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
136	48.43	60.07	（変質欄）3ランク	48.43	60.07	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・深度48.20m以浅と差がないため変質のランクを2ランクに変更した
137	-	-	-	48.74	48.74	傾斜49°の割れ目に幅1mm以下の灰白～緑灰色粘土を挟む。下端側幅20mm程度は長石の白濁化が目立つ。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・粘土の挟在及び長石の白濁化は周囲と異なる状況であるため追記した
138	-	-	-	48.87	48.87	傾斜42°の割れ目とそれと直交する40～50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
139	-	-	-	49.02	49.18	不規則な割れ目が発達する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・不規則な割れ目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した
140	49.18	49.18	剪断性の節理。63°。上盤側幅20mm劣化し脆弱となる。	49.18	49.18	せん断性の節理。63°。上端側幅20mm劣化し脆弱となる。 幅2mm以下の褐色粘土及びよ端側の脆弱部は連中でせん滅し、連続性に乏しい。幅広は幅5mm程度で褐色化している。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の統一（せん断） ・63°割れ目を横断する高角度割れ目が見られる ・上端側がなりしも上盤とは限らないため上端に変更した ・粘土の挟在と緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・粘土及び鉄質部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性節理ではないと判断し「せん断性の」を削除した
141	49.43	49.43	白色の鉱物脈、風化しやや軟質、幅4mm、角度47°	49.43	49.43	白色～青褐色の鉱物脈、風化しやや軟質、幅2～4mm、角度47°									-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて色調及び真幅を変更した
142	50.09	50.09	70°の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	50.09	50.09	15～70°の湾曲した開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜及び形状について追記した
143	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・「劣化しコア全体が軟質」と同意の記事のため削除した
144	50.39	50.60	（岩級区分欄）D	50.39	50.60	（岩級区分欄）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
145	50.58	50.92	白色細脈が不規則に入る。	50.58	50.92	白色粘土細脈が不規則に入る。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・細脈について追記した
146	51.20	51.43	幾細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈（方）長石）が見られる所が多い。	51.20	51.43	幾細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って幅1mm以下でにぶい橙色粘土が見られる所が多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脈状のかり長石は1条しか見られず、それより粘土の挟在が目立つため挟在物についての記載を変更した
147	51.86	51.97	幾細割れ目が非常に卓越（30～50°）。コアは軟質となる。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
148	51.90	51.90	45°の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈、厚さ4mm、褐色汚染明瞭。	52.90	52.90	45°の割れ目沿いに変質した黄褐色粘土脈、厚さ4mm、褐色汚染明瞭									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脱記の修正（51.90⇒52.90、汚色⇒褐色） ・コアに合わせて挟在物を変更した
149	-	-	-	52.11	53.35	傾斜20°以下の幾細な割れ目が1～3mm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・低角度の幾細な割れ目が発達することは周囲と異なる状況であるため追記した
150	52.48	52.44	幾細な割れ目が密集、コアは局所的に腐状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	52.38	52.44	幾細な割れ目が密集、コアは局所的に腐状となる。上端側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脱記の修正（52.48⇒52.38） ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した
151	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・深度52.11～53.35mの記事に変更したため削除した
152	53.54	53.59	割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細腐～砂状となる。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
153	53.74	53.74	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細腐状となる。	53.84	53.84	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細腐状となる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脱記の修正（53.74⇒53.84）
154	54.66	54.73	50～60°の比較平均な割れに沿って劣化、一部腐状となる。褐色汚染も顕著。	54.66	54.73	50～60°の比較平均な割れ目に沿って劣化、一部腐状となる。褐色汚染も顕著。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脱記の修正（割れ⇒割れ目）
155	54.96	55.55	低角度の割れ目が非常に卓越する	54.96	55.55	傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・低角度を具体的な数値に変更した
156	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで黄褐色の砂が挟在する。褐色汚染も明瞭である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・色調を追記した
157	56.06	56.41	（岩級区分欄）CM	56.06	56.41	（岩級区分欄）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													
			記事			記事 （変更箇所を本書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・凍結や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・乾燥風化、硬の種類及び粒径、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海決度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など	概述作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・種、岩品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	物理等の該れ目 ・同系統の該れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な該れ目の見かけの傾斜や該在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な該れ目があれば、該れ目の間隔、開口幅、該れ目面の色調、該れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（HL/Hk/H） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・現数 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統状構造、複合脈構造、茶筒構造、該れ目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	概述作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
158	56.41	57.09	（該れ目状態欄）cランク	56.41	57.09	（該れ目状態欄）bランク																				・挟在物を伴う該れ目は少ないため該れ目状態の ランクをbランクに変更した
159	56.45	56.61	高角度と低角度の該れ目が交叉し亀甲状となる。	56.45	56.61	高角度と低角度の該れ目が交差し亀甲状となる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（交叉⇒交差）
160	56.74	56.74	71°の該れ目に褐色粘土厚さ3mm挟在。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
161	56.88	56.98	約50°のほぼ平行した極細な該れ目が卓越。一部棒状コアとなる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
162	57.24	58.50	この間、多くの該れ目に褐色汚染が見られる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
163	57.41	57.41	（岩級区分欄）CM	57.41	57.54	（岩級区分欄）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該記の修正（下端深度57.41⇒57.54） ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
164	57.54	57.74	該れ目沿いに劣化、軟質、脆弱。	57.54	57.74	傾斜50～60°の該れ目沿いに劣化、軟質、脆弱。幅1～3mmの黄褐色粘土を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・傾斜及び該れ目の挟在物について追記した
165	57.91	58.71	（該れ目状態欄）cランク	57.91	58.71	（該れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う該れ目は少ないため該れ目状態のランクをbランクに変更した
166	57.91	58.06	（岩級区分欄）CL	57.91	58.06	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級区分を変更した
167	58.06	58.71	砂状の該在物が見られる該れ目が多いが、岩質は硬い。	58.06	58.71	砂状の該在物が見られる該れ目が多いが岩質は硬い。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う該れ目は少ないため削除した
168	58.71	59.02	（岩級区分欄）CL	58.71	59.02	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
169	59.02	59.34	潜在的なものを除き、該れ目のない柱状コア。岩質も硬い。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
170	59.02	59.34	（岩級区分欄）CH	59.02	59.34	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
171	60.07	60.45	極細な該れ目が卓越し、コアも軟質となる。該れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。	60.07	60.45	極細な該れ目が卓越し、変質によりコアも軟質となる。該れ目沿いにコア表面は凹む所が多く、ザラつく。 灰白～にぶい橙色の粘土が網目状に分布している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・軟質化の原因について追記した ・網目状の粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
172	60.45	60.82	（変質欄）3ランク	60.45	60.82	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
173	60.45	60.82	低～中角度の平行に近い該れ目が卓越、該れ目に沿った褐色汚染が明瞭。	60.45	60.82	30～60°の平行に近い該れ目が卓越、該れ目に沿った褐色汚染が明瞭。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・低～中角度を具体的な数値に変更した
174	60.82	61.72	極細な該れ目が卓越、コアも軟質で挑弱。特に61.40～61.58m間は劣化が顕著。	60.82	61.72	極細な該れ目が卓越、にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で挑弱。特に61.40～61.58m間は劣化が顕著で砂棒状を呈する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・網目状の粘土は周囲と異なる状況であるため追記した ・砂棒状を呈することは周囲と異なる状況であるため追記した
175	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で極細な該れ目が非常に卓越する。 コアは軟質となり、表面がザラつく。	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で極細な該れ目が非常に卓越する。該れ目沿いの褐色汚染が見られる。 コアは軟質となり、表面がザラつく。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目沿いの褐色汚染は周囲と異なる状況であるため追記した ・表面がザラつくの記載は、深度が不明で、かつ、コアが硬くなることと矛盾しているため削除した
176	61.72	62.36	（該れ目状態欄）cランク （変質欄）3ランク	61.72	62.36	（該れ目状態欄）bランク （変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う該れ目は少ないため該れ目状態のランクをbランクに変更した ・上位に比べて変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した。
177	62.36	63.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で極細な該れ目が卓越する。	62.36	63.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で極細な該れ目が卓越する。該れ目沿いに灰白色粘土を伴う。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該記の修正（優性⇒優勢） ・粘土の挟在について追記した
178	-	-	-	62.40	62.52	長石の白濁化が目立つ									なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる状況であるため追記した
179	62.75	62.75	剪断性の該れ目（鏡面）、幅10mmやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭。	62.75	62.75	傾斜65°のせん断性の該れ目（鏡面）、幅10mmでやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭。該れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を断続的に挟み、連続性に乏しい。同系統の該れ目は白色鉱を随所に含む。該れ目面周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な該れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・傾斜について追記した ・表現の統一（せん断） ・脈鉱の追記 ・挟在物の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な該れ目の有無について追記した。 ・追記した理由からせん断性該れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した
180	63.00	63.26	劣化し全体に軟質、脆弱。該れ目に砂やシルトが生じている。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
181	-	-	-	63.26	63.62	上下位に比べて変質の程度は弱い。該れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて変質の程度が弱くなることについて追記した ・該れ目の挟在物が目立つため追記した
182	63.26	63.62	（変質欄）3ランク	63.26	63.62	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲に比べて変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
183	63.62	63.90	全体に軟質、脆弱。亀甲状の該れ目には灰白色のシルトが生じている。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
184	63.62	63.90	（コアの硬さ欄）Cランク	63.62	63.90	（コアの硬さ欄）Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて軟質化しているためコアの硬さのランクをDランクに変更した
185	63.90	63.30	変質し軟質、該れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。	63.90	64.30	強く変質し軟質、該れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織が認められる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該記の修正（下端深度63.30⇒64.30） ・粘土化が進んでいるため「強く」変質していることを追記した ・破砕部ではないことを示すために母岩の組織の有無について追記した
186	63.90	63.30	（コアの硬さ欄）Dランク	63.90	64.30	（コアの硬さ欄）Eランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該記の修正（下端深度63.30⇒64.30） ・粘土化し軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した
187	-	-	-	64.30	64.65	上下位に比べて変質の程度は弱い、不規則な該れ目が発達している。酸化汚染は見られない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質部と破砕部に挟まれる区間について追記した
188	64.30	64.65	（変質欄）3ランク （岩級区分欄）CL	64.30	64.65	（変質欄）2ランク （岩級区分欄）D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度は弱いため変質のランクを2ランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名 :H27-B-4

○ :記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と照合できるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、密の程度及び粘恐、含有物(有機質、見怠など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、夾雑物、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、結化など	鑑識作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・程、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	堆積構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挿獲岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(H1,H2,H3) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の確原論 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・脈状構造、複合基構造、系帯構造、網目状結土など	最新活動面(記述した場合)	空隙の状況	鑑識作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	
189	64.65	64.91	破砕帯	64.65	64.91	破砕部 最新活動面は64.74mか64.80mの可能性がある。									-	-	-				-		-	-		・規矩の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面について追記した
190	64.65	64.65	上盤65°：粘土3mm	64.65	64.65	上端65°：やや軟質な暗灰色粘土を幅3mm で伴う。一部不連続。									-	-	-			○	-		-	-		・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・挟在する粘土の硬軟、色調、連続性を追記した ・3mmが幅であることを明記した
191	-	-	-	64.74	64.74	傾斜60°　幅1mm以下の硬質な灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-			○	-		-	-		・直線性が良い細粒部を挟在するため追記した
192	-	-	-	64.80	64.80	傾斜60°　幅1～3mmの硬質な灰～灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-			○	-		-	-		・直線性が良い細粒部を挟在するため追記した
193	64.91	64.91	下盤65°(やや不鮮明)。これより上位硬状、上下盤の間に断断面2条あり。	64.91	64.91	下端65°(やや不鮮明)。これより上位(64.80～64.91m間)は硬状、上下端の間にせん断面2条あり。 全体に粘土混じり硬状態(Hg)でやや硬質。含まれる灰白色粘土は明度低に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄橙色を呈する。									-	-	-			-	-		○	-		・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。上盤も同様。 ・上位の区間深度を明記した ・表現の統一(せん断) ・破砕部内物質、破砕度区分、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調について追記した
194	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Dランク	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・硬質部を区別してコアの硬さのランクをBランクに変更した
195	64.91	65.59	(変質欄)3ランク	64.91	65.59	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
196	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Dランク	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目は多いが、やや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
197	65.59	65.72	破砕される。110mm。砂～礫状。 65.59m、65°：上盤 65.72、62°：下盤、部分的に灰白色粘土2～3mm。明確なカワジは無い。	65.59	65.72	破砕部。 幅10mm。粘土混じり砂～礫状。幅2～30mの岩片主体で一部砂状化する。Hg。灰色を呈する。 全体に軟質。含まれる細粒部は局所的に存在。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。 65.59m、65°：上端、直線的に連続。 65.72m、30°：下端、不明瞭。部分的に灰白色粘土2～3mm。明確なカワジ粘土は無い。 最新活動面は65.65m(最も直線的で不連続ながら細粒部を伴う) 65.65m、傾斜65°　幅2～3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。									-	-	-			○	○	○	○		-	-	-	・表現の統一(破砕される→破砕部) ・幅、破砕度区分を明記した ・破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調について追記した ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・上端境界の直線性について追記した ・幅記の修正(65.72の単位違れ) ・下端の粘土はコアでは不明ならの記載を削除した ・下端の傾斜角を変更した。 ・表現の統一(カワジ→粘土) ・最新活動面を設定し、65.65mの面について追記した
198	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Jランク (変質欄)3ランク (破砕度区分欄)－	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)Gランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hg									-	-	-			-	-		-	-		・上記の破砕部に対応するランクを追記した
199	-	-	-	65.72	65.85	網目状に複細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・網目状粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
200	-	66.30	割れ目が卓越し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	65.85	66.30	傾斜20～80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・上端深度を明記した ・割れ目の傾斜について追記した ・様々な方向の割れ目が見られるため表現を適正化した
201	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)3ランク	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアはやや硬質であることが多いためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
202	66.30	67.28	割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に、66.80～66.95mの60～70°の高角度の割れ目沿いは顕著。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
203	66.97	67.28	割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	66.97	67.28	割れ目が交差し、細かい亀甲状となる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(交叉⇒交差)
204	67.28	67.78	変質部、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	67.28	67.75	変質部、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。 健岩部との境界は明瞭であるが消滅している。上端側は低角度の割れ目で埋められる。原岩組織は不明瞭。含まれる岩片に定向配列などは見られない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・下端深度をコアに合わせて変更した ・変質部の性状や境界、原岩組織の有無などについて追記した
205	67.28	67.75	(岩級区分欄)D (破砕度区分欄)Hb	67.28	67.75	(岩級区分欄)CL (破砕度区分欄)-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた ・破砕部ではないため破砕度区分は削除した
206	-	-	-	67.85	68.70	傾斜30～50°程度の割れ目が主体。特に、68.23～68.64m間は0.5～3cm間隔で発達している。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・同系統の割れ目が発達していることは周囲と異なる状況であるため追記した
207	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Dランク	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
208	67.85	80.13	(変質欄)3ランク	67.85	80.13	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
209	68.07	-	割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	68.07	68.97	割れ目が卓越し、コアは軟質で表面はザラつく。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の記載は、深度67.85～68.70mの記載に含めたため削除した
210	68.70	68.70	30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。	68.70	68.70	30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。 割れ目の周辺は幅5～10mm程度で緑色化が顕著。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
211	-	-	-	68.70	68.97	傾斜70～90°の割れ目が多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
212	68.97	69.08	細礫～砂状コア。粘土なし。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-		
213	68.97	69.08	(岩級区分欄)D	68.97	69.08	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
214	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Dランク	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
215	69.28	69.33	割れ目沿いに劣化。細礫状となる。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
216	-	-	-	69.59	69.59	傾斜30°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
217	69.63	69.77	高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。	69.63	69.77	50～70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交差。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(交叉⇒交差)
218	-	-	-	69.70	69.70	傾斜25°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
219	69.85	70.00	割れ目密集。岩片状コア。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 （変更箇所を赤書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯									記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など）	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	熱処理等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目がみれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のテペリ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（HL/MH/H） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質を細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉理構造、明目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
220	70.06	70.06	付近、60°、幅20mm～30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。	70.06	70.06	付近、60°、幅20～30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。跡れ目沿いの細粒部の分布は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。									なし	-	-	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	記事			記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）														破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況が あれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造（層理、葉理、級化など）	掘進作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、斑晶の種類・径、斑晶の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱現等の跡礼目・同系統の跡礼目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な跡礼目の見かけの傾斜や該当物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な跡礼目があれば、跡礼目の間隔、間口幅、跡礼目面の色調、跡礼目面のテ ペリ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被熱岩・岩種	破砕度区分・記号（HL/ML/H））・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・理数・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・級状構造、複合面構造、葉構造、明目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	掘進作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
257	－	－	－	78.29	78.29	傾斜24°で幅10mm程度が砂～細片状を呈する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・砂～細片状部の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
258	－	－	－	78.47	78.71	跡礼目沿いにマンガン汚染が目立つ。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
259	78.47	78.71	（跡礼目状態欄）cランク	78.47	78.71	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
260	78.90	79.03	（コアの形状欄）Ⅳランク（岩級区分欄）CL	78.90	79.03	（コアの形状欄）Ⅴランク（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目が発達しているためコアの形状欄のランクをⅤランクに変更した。・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
261	79.23	79.67	（岩級区分欄）CL	79.23	79.67	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
262	79.45	79.52	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に跡礼目として認識できるものは少ない。	79.45	79.57	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に跡礼目として認識できるものは少ない									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・深度79.57mまで筋状のマンガン汚染が見られるため下端深度を変更した。・掘起の修正（少い⇒少ない）
263	79.67	80.13	（跡礼目状態欄）cランク	79.67	80.13	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
264	79.67	79.82	（岩級区分欄）CL	79.67	79.82	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の跡礼目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
265	80.13	80.29	35～55°の同方向の跡礼目が密集する。	80.13	80.29	35～55°の同方向の跡礼目が密集する。マンガン汚染が目立つ。脱色も見られる。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・マンガン汚染や脱色は周囲と異なる状況であるため追記した
266	80.13	80.51	（岩級区分欄）CL	80.13	80.51	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
267	80.29	80.51	跡礼目の傾度はやや少なくなるが、跡礼目沿いの変化は明瞭。	－	－	－									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
268	80.29	84.46	（変質欄）3ランク	80.29	84.46	（変質欄）2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
269	80.51	81.02	跡礼目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い。	80.51	81.02	跡礼目には挟在物が見られず、岩質は硬い。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物は少ないため記載を変更した
270	80.51	81.02	（コアの形状欄）Ⅳランク（跡礼目状態欄）cランク（岩級区分欄）CM	80.51	81.02	（コアの形状欄）Ⅲランク（跡礼目状態欄）bランク（岩級区分欄）CH									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目が少なく、挟在物を伴う跡礼目も見られないため、コアの形状及び跡礼目状態のランクを変更した。・上記の変更に伴い、岩級を変更した
271	81.02	81.30	（コアの硬さ欄）cランク（岩級区分欄）CL	81.02	81.30	（コアの硬さ欄）aランク（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをaランクに変更した。・上記のコアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した
272	81.30	81.96	跡礼目の挟在物も薄く、岩質も硬質、高角度の微細な跡礼目が見られるが、完全に密着している。	81.30	81.96	跡礼目の挟在物も薄く、岩質も硬質、80°の高角度の微細な跡礼目が見られるが、完全に密着している。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度の跡礼目について具体的な数値を追記した
273	81.30	82.70	（跡礼目状態欄）cランク	81.30	82.70	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
274	82.48	82.83	（コアの硬さ欄）cランク	82.48	82.83	（コアの硬さ欄）aランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをaランクに変更した
275	81.96	82.83	（岩級区分欄）CL	81.96	82.83	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
276	－	－	－	82.70	82.70	傾斜50°前後の跡礼目に幅1～3mmの褐色粘土を挟む。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
277	－	－	－	82.83	82.83	傾斜50°前後の跡礼目に幅1～3mmの褐色粘土を挟む。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
278	82.83	83.32	（岩級区分欄）CL	82.83	83.32	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
279	83.08	83.32	跡礼目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、跡礼目沿いのみならず、コアの半分程度に及ぶ。	83.08	83.32	40°前後の跡礼目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、跡礼目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な跡礼目が発達している。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目の傾斜について追記した・微細な跡礼目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した・表現の適正化（「コアの半分」の意味が分かりにくい）
280	－	－	－	83.31	83.31	傾斜30°前後の跡礼目に幅0～3mmの褐褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
281	83.32	84.09	（跡礼目状態欄）cランク	83.32	84.09	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
282	84.09	84.77	跡礼目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39～85.54間は劣化が進み、脆弱。	84.09	84.77	多方向の跡礼目が発達し、岩質も軟質となる。特に84.13～84.18m、84.39～84.54～間は劣化が進み、脆弱。黄色味を帯びて細片状を呈する。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・不規則な跡礼目が発達していることについて追記した・劣化が進んだ区間を追記した・掘起の修正（85.54⇒84.54m、深度の間違いと単位忘れ）・劣化の性状について追記した
283	84.56	93.13	（変質欄）3ランク	84.58	93.13	（変質欄）2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
284	84.81	84.94	（コアの形状欄）Ⅴランク	84.81	84.94	（コアの形状欄）Ⅳランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目が少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
285	84.81	85.86	（跡礼目状態欄）cランク	84.81	85.86	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
286	84.81	85.73	（岩級区分欄）CL	84.81	85.73	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記のコアの形状及び跡礼目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
287	85.73	85.97	高角度の2条の跡礼目に挟まれた範囲で跡礼目が卓越、岩片状となる。	85.73	85.97	70～90°の高角度の2条の跡礼目に挟まれた範囲で跡礼目が発達、岩片状となる。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度の跡礼目について具体的な数値を追記した・表現の適正化（卓越→発達）
288	85.73	85.97	（岩級区分欄）CL	85.73	85.97	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
289	85.97	86.73	（跡礼目状態欄）cランク	85.97	86.73	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
290	85.97	86.14	（岩級区分欄）CL	85.97	86.14	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の跡礼目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
291	86.73	86.83	上下の跡礼目（節理）に挟まれた区間で局所的に砂～礫状となる。	86.73	86.83	上端37°、下端40°の跡礼目（節理）に挟まれた区間で局所的に明褐灰色の砂～礫状となる。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目の傾斜を具体的に追記した・砂～礫状部の色調を追記した
292	86.73	86.83	（岩級区分欄）D	86.73	86.83	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
293	86.83	86.96	（跡礼目状態欄）cランク	86.83	86.96	（跡礼目状態欄）bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う跡礼目は少ないため跡礼目状態のランクをbランクに変更した
294	86.83	88.16	（コアの形状欄）Ⅳランク（岩級区分欄）CM	86.83	88.16	（コアの形状欄）Ⅲランク（岩級区分欄）CH									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した・上記の変更に伴い、岩級を変更した
295	86.96	88.03	跡礼目面や跡礼目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。	86.83	88.03	傾斜60°前後の跡礼目面や跡礼目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・跡礼目沿いの褐色は深度88.83mにも見られるため、上端深度を変更した。・跡礼目の傾斜を具体的に追記した
296	－	－	－	87.11	87.11	傾斜60°で幅5mm程度が褐色化している。									○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名 H27-B-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	節理系コア観察カード ・コア欠如、コア接続など	地質名及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や現在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・排泄岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級区構造、複合走構造、系等構造、明目状粘土など	最新活動面（記変した場合）	空隙の状況	鉱進作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
297	88.03	88.16	（割れ目状態欄）bランク	88.03	88.16	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
298	88.26	88.62	（岩級区分欄）CL	88.26	88.62	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
299	-	-	-	88.59	88.59	傾斜43°の割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土の挟在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
300	88.62	88.88	（割れ目状態欄）bランク	88.62	88.88	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
301	88.88	89.00	（岩級区分欄）CL	88.88	89.00	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
302	88.96	88.96	45°の割れ目の下盤側劣化し局所にに非常に脆弱。上盤側は幅20mmマンガンの汚染がコアに明瞭。	88.96	88.96	45°の割れ目の下端側劣化し局所的にに非常に脆弱。上端側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染がコアに明瞭に見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・指記の修正（局所にに⇒局所的に） ・表現の適正化（巾⇒幅） ・酸化汚染も見られるため追記した ・文章の適正化
303	89.00	89.27	（割れ目状態欄）bランク	89.00	89.27	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
304	89.27	89.44	微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質。	89.27	89.44	傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5～3cm程度の間隔で発達する。コアも幾分軟質。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜や間隔について追記した ・表現の適正化（卓越⇒発達）
305	89.27	89.44	（岩級区分欄）CL	89.27	89.44	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
306	89.44	90.36	（割れ目状態欄）cランク	89.44	90.36	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
307	89.44	89.50	（岩級区分欄）CL	89.44	89.50	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
308	89.00	90.00	（RQD欄）20	89.00	90.00	（RQD欄）0									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正（最大コア長が6cmであるため、RQDは0となる）
309	-	-	-	90.64	90.64	傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガンの挟在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
310	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目でよまっているに切られるものが多い。50°以下の割れ目沿いの細粒部はせん断しない。もしくは途中でせん滅し、連続性に欠しく 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（低角度ではなくなったため「低角度」の記載を削除した ・50°以下の割れ目沿いの細粒部の連続性、割れ目周辺の岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した ・低角度割れ目で切られているとした高角度割れ目は、切っている低角度割れ目を挟んで両側に対比できる高角度割れ目が見られないことから、切っていると判断することができないためが止まっている」に変更した
311	91.45	91.45	48°剪断性の割れ目（節理）、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる。	91.45	91.45	48°せん断性の割れ目（節理）、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる。 挟在する細粒部はせん滅する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・挟在する細粒部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・追記した理由から破砕部及びせん断性割れ目 ではないと判断して「幾分破砕され」と「せん断性」を削除した
312	92.55	92.71	高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	92.55	92.71	多方向の割れ目が交差し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・あらゆる方向の割れ目が分布するため記載を変更した ・表現の適正化（交叉⇒交差）
313	-	-	-	92.94	92.96	傾斜27～40°の2条の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びる。やや軟質。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・黄色味を帯びることは周囲と異なる状況であるため追記した
314	93.13	93.22	破砕帯	93.13	93.22	破砕部（最新活動面は93.13mか93.14mの可能性がある）									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯⇒破砕部） ・最新活動面について追記した
315	93.13	93.13	上盤30°、粘土12mm、主	93.13	93.14	上下端30°、粘土12mm主 軟質な淡黄色粘土（Hc-1）。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	・下端境界について追記した ・「主」は、主せん断面のことであるが、コア観察で93.13mか93.14mか判断できないため削除した。 ・粘土の硬軟、色調、破砕度区分、連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	-	-
316	93.22	93.22	下盤50°粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土断が見られる。	93.14	93.22	粘土混じり硬状部（Hj）にふい黄褐色を呈する。上端30°、下端50°、幅2～10mmの岩片主体。軟質であるが、含まれる灰白色粘土細断は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅87mm。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端深度について追記し、本区間の破砕部の破砕部内物質、破砕度区分、色調、上端下端境界の傾斜、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、真幅について追記した	-	-
317	93.13	93.22	（コアの硬さ欄）Cランク （コアの形状欄）Vランク （割れ目状態欄）cランク	93.13	93.22	（コアの硬さ欄）Eランク （コアの形状欄）IVランク （割れ目状態欄）dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の破砕部の区間のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態の各ランクを区分して変更した
318	-	-	-	93.13	93.14	（破砕度区分）Hc-1									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
319	-	-	-	93.14	93.22	（破砕度区分）Hj									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
320	93.22	93.37	（コアの形状欄）Vランク	93.22	93.37	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
321	93.22	98.56	（変質欄）3ランク	93.22	98.56	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
322	93.57	94.18	（コアの形状欄）Vランク	93.57	94.18	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
323	93.70	93.88	（コアの硬さ欄）Cランク	93.70	93.88	（コアの硬さ欄）Eランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した
324	93.70	94.18	（割れ目状態欄）cランク	93.70	94.18	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
325	93.70	94.76	（岩級区分欄）CL	93.70	94.76	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した。
326	94.38	94.40	剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	94.38	94.40	せん断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・会合程を横断する石英粒が見られる ・挟在する細粒部の連続性、当該区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した
327	94.40	94.76	（コアの形状欄）Vランク （割れ目状態欄）cランク	94.40	94.76	（コアの形状欄）IVランク （割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少なく、挟在物を伴う割れ目は少ないためコアの形状及び割れ目状態のランクを変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など	搬送作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流堆構造	熱現等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のアメリ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・被覆岩 ・鉱種	破砕度区分 ・記号（HL/HJ/HU） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質を細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・総状構造、複合面構造、条線構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	搬送作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
328	95.08	95.37	35～60°の平行した跡れ目に沿って弱い変質作用を受ける。跡れ目沿いはやや緑色味を帯びる。	95.08	95.37	35～60°の平行した跡れ目に沿って弱い変質作用を受ける。跡れ目沿いはやや緑色味を帯びる。 95.37mの跡れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
329	95.65	95.75	劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し（熱水の影響）光る。	95.65	95.75	傾斜60°、幅3mm程度で劣化し脆弱となる。緑黄褐が散在し（熱水の影響）光る。砂礫状を呈する。									なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・劣化部の傾斜及び幅について追記した ・砂礫状部は周囲と異なる状況であるため追記した ・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、熱質サイトで見られる変質鉱物は酸性～中性のものが多いため、そのような環境で晶出する緑雲母の方が適切と判断して変更した	
330	96.20	96.20	30°の剪断性の跡れ目（節理）、幅30～40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる	96.20	96.20	30°のせん断性の跡れ目（節理）、幅30～40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。 下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる微小岩片に変向配列は見られない。節間部の様状は不明瞭で凹凸が多い。節間部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・緑色化は全体に見られるため「一部」を削除した ・砂礫状部の境の定向配列、節間部の境界の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な跡れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕部及びせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性」「弱い破砕を受ける」を削除した	
331	96.42	97.10	（色調欄）7.5YR8/6 浅黄橙	96.22	97.10	（色調欄）7.5YR8/6 浅黄橙									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・96.42mに色調境界が見られないため、96.22mに境界を変更した	
332	96.53	97.00	（跡れ目状態欄）oランク	96.53	97.00	（跡れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う跡れ目は少ないため跡れ目状態のランクをbランクに変更した	
333	96.53	97.10	（コアの硬さ欄）Dランク	96.53	97.10	（コアの硬さ欄）Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	
334	96.85	97.00	（コアの形状欄）Vランク	96.85	97.00	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	
335	－	－	－	96.96	96.96	傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	
336	97.10	97.58	跡れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	97.10	97.58	跡れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。コアが乱れている。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った ・コアの接乱部について追記した	
337	97.58	97.81	（岩級区分欄）CL	97.58	97.81	（岩級区分欄）D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
338	97.81	98.03	跡れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	97.81	98.03	跡れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った	
339	98.02	98.27	短柱状～岩片状コア。跡れ目に沿った劣化が顕著。	98.03	98.27	短柱状～岩片状コア。傾斜45～60°の跡れ目に沿った劣化が顕著。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて上端深度を変更した ・跡れ目の傾斜について追記した	
340	98.03	98.56	（コアの硬さ欄）Dランク	98.03	98.56	（コアの硬さ欄）Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	
341	98.27	98.56	（コアの形状欄）Vランク	98.27	98.56	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	
342	99.27	99.53	柱状～短柱のコアとして採取されるが、密着した粗細な跡れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	98.27	99.53	柱状～短柱状のコアとして採取されるが、密着した粗細な跡れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・柱状～短柱のコアの上端深度をコアに合わせて変更した ・脈記の修正（「状」の記載漏れ）	
343	－	－	－	98.64	98.64	傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	
344	－	－	－	98.70	98.74	マンガン濃集部									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン濃集部は周囲と異なる状況であるため追記した	
345	98.86	99.00	（コアの硬さ欄）Dランク	98.86	99.00	（コアの硬さ欄）Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	
346	98.86	108.44	（変質欄）3ランク	98.86	108.44	（変質欄）2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	
347	99.05	99.10	局所的に劣化が進み硬状となる。汚染も顕著。 99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる。	99.05	99.10	局所的に劣化が進み硬状となる。酸化汚染も顕著。 99.10m付近 緑雲母が多く見られる。 傾斜30°で幅1.5cm程度が緑色化している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・汚染の種類について追記した ・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、熱質サイトで見られる変質鉱物は酸性～中性のものが多いため、そのような環境で晶出する緑雲母の方が適切と判断して変更した ・文章の修正（明瞭→多く） ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	
348	99.10	99.62	（コアの硬さ欄）Dランク	99.10	99.62	（コアの硬さ欄）Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	
349	99.53	101.30	（跡れ目状態欄）oランク	99.53	101.30	（跡れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う跡れ目は少ないため跡れ目状態のランクをbランクに変更した	
350	100.28	100.28	50°～55°の跡れ目中に砂状の破砕物を厚さ2～4mm挟む。褐色汚染明瞭。	100.28	100.28	50°～55°の跡れ目中に赤褐色の砂状の破砕物挟在物を厚さ2mmで不連続に挟む。褐色汚染明瞭。跡れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂状部の色調を追記した ・挟当深度の挟在物の幅に変更した ・跡れ目周辺の岩盤の原岩組織の有無及び系統的な跡れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	
351	100.30	100.30	50°～55°の跡れ目中に砂状の破砕物を厚さ2～4mm挟む。褐色汚染明瞭。	100.30	100.30	50°～55°の跡れ目中に赤褐色の砂状の破砕物挟在物を厚さ4mmで不連続に挟む。褐色汚染明瞭。跡れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂状部の色調を追記した ・挟当深度の挟在物の幅を変更した ・跡れ目周辺の岩盤の原岩組織の有無及び系統的な跡れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	
352	100.44	100.58	（コアの形状欄）IVランク	100.44	100.58	（コアの形状欄）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	
353	100.45	100.45	25°の低角度跡れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性がある。	100.45	100.45	25°の低角度跡れ目の周辺に鮮やかな緑色の変質鉱物（緑泥石）が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、緑孔雀石の可能性がある。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて鉱物の色を変更した ・孔雀石、珪孔雀石共色的に応多量の銅元素が必要であるが、熱質サイトの花崗岩類に多量の銅元素は含まれないため記載を削除した ・緑色鉱物は熱質サイトで普通的に見られる緑泥石による緑色化によるものと判断して緑泥石に変更した	
354	101.07	101.30	（コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）CL	101.07	101.30	（コアの硬さ欄）BランクCM （岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	
355	101.24	101.30	（コアの形状欄）Vランク	101.24	101.30	（コアの形状欄）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目は少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	
356	101.30	101.43	（岩級区分欄）CL	101.30	101.43	（岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
357	101.31	101.43	低角度を主体としたの跡れ目が集中。跡れ目沿いの劣化も明瞭。一部局所的に継状となる。	101.31	101.43	5～20°の低角度を主体としたの跡れ目が集中。跡れ目沿いの劣化も明瞭。一部局所的に継状となる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目の傾斜を具体的に追記した ・脈記の修正（主体としたの→主体とした）	
358	－	－	－	101.34	101.34	傾斜51°で幅5～10mmの褐色砂状部を挟む。径2～5mmの岩片を含む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂状部の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名 H27-B-4

○ 記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕等								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく起記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく起記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現象の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の様態及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵退作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・住、現品の含有率などを記載	色調 ・現象の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のオペリス、リッゲンサイド、条線、見かけの変位センス等を記載	鉱物脈 ・石英脈、瀝石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・排泄岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（H_0,H_1,H_2） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・充かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・節状構造、複合岩構造、条帯構造、斜目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鍵退作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	
359	101.43	102.23	柱状～長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
360	102.23	102.37	割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは剪断性の態様で、割れ目沿いの劣化が明瞭。	102.23	102.37	傾斜50°の割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mはせん断性の態様で、割れ目沿いの劣化が明瞭。幅1～5mmの砂混じり黄褐色シルトを挟む。2条の割れ目の間及び周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・表現の統一（せん断） ・シルトの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した ・せん断性態様に挟まれた区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無や系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由からせん断性の態様ではないと判断して「せん断性の態様では」を削除した
361	102.23	102.37	（割れ目状態）Hランク	102.23	102.37	（割れ目状態）Eランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴うため割れ目状態のランクをEランクに変更した
362	102.23	102.56	（岩級区分種）CL	102.23	102.56	（岩級区分種）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
363	102.37	102.89	（コアの硬さ種）Cランク	102.37	102.89	（コアの硬さ種）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
364	102.56	103.37	（コアの形状種）IVランク	102.56	103.37	（コアの形状種）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した
365	102.56	102.89	（岩級区分種）CL	102.56	102.89	（岩級区分種）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
366	102.89	103.37	（岩級区分種）CM	102.89	103.37	（岩級区分種）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
367	103.37	103.40	（コアの硬さ種）IIIランク （コアの形状種）IVランク	103.37	103.40	（コアの硬さ種）Dランク （コアの形状種）Vランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや軟質で割れ目が発達するため、コアの硬さ、コアの形状のランクを変更した
368	103.37	103.72	（割れ目状態）IIランク	103.37	103.72	（割れ目状態）Eランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴うため割れ目状態のランクをEランクに変更した
369	103.40	103.55	（コアの硬さ種）Cランク	103.40	103.55	（コアの硬さ種）Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
370	103.40	103.55	（岩級区分種）CL	103.40	103.55	（岩級区分種）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
371	103.40	103.55	高角度主体の微細な割れ目が卓越する。	103.40	103.55	傾斜40～50°の割れ目の間に高角度の微細な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・微細な割れ目について分布範囲などを追記した ・卓越するほど多くはないため「分布する」に変更した ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
372	103.55	103.72	（コアの硬さ種）IIIランク	103.55	103.72	（コアの硬さ種）Cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
373	104.03	104.17	50°～60°の剪断性の割れ目（節理）が卓越する。	104.03	104.17	50°～60°のせん断性の割れ目（節理）が卓越する。これとほぼ直交する割れ目は横断しているものが見られる。 割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（せん断） ・割れ目沿いの細粒部の連続性や原岩組織の有無について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した
374	104.03	104.17	（割れ目状態）IIランク	104.03	104.17	（割れ目状態）Eランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴うため割れ目状態のランクをEランクに変更した
375	104.03	104.17	（岩級区分種）CL	104.03	104.17	（岩級区分種）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
376	104.17	104.30	（コアの硬さ種）Cランク	104.17	104.30	（コアの硬さ種）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
377	104.17	104.36	（コアの形状種）IVランク	104.17	104.36	（コアの形状種）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した
378	104.17	104.67	（岩級区分種）CL	104.17	104.67	（岩級区分種）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態ランクの変更に伴い、深度（104.17～104.36m間がCH級、104.36～104.67m間がCM級となり、各区間長が50cm未満となるため、CH級の区間は周囲の岩級に含めてCM級とした
379	104.50	104.90	コアは既状の褐色汚染が明瞭である。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
380	104.67 -	105.08 -	（コアの形状種）IVランク （岩級区分種）CM	104.67	105.08	（コアの形状種）IIIランク （岩級区分種）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
381	105.08	105.80	柱状コアが主体で岩質も堅硬。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
382	105.80	106.09	（コアの形状種）IVランク	105.80	106.09	（コアの形状種）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した
383	106.31	106.38	局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。	106.31	106.38	局所的に傾斜10～45°の割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・表現の適正化（僅かｰわずか）
384	106.37	107.47	（割れ目状態）IIランク	106.37	107.47	（割れ目状態）Hランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目はないため割れ目状態のランクをHランクに変更した
385	106.52	108.44	（岩級区分種）CM	106.52	108.44	（岩級区分種）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目状態のランクをHランクに変更したことに伴い、岩級を変更した。 ・一部、区間長が50cm未満のCM級を挟むが、周囲のCH級に含めた
386	106.58	106.92	コアに既状の褐色汚染が見られる。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
387	106.87	106.87	30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂～シルトが厚さ3mmで挟在する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
388	107.11	107.31	（コアの形状種）IVランク	107.11	107.31	（コアの形状種）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が存在しないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した
389	107.47	108.34	堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
390	107.91	108.34	（コアの形状種）IIIランク	107.91	108.34	（コアの形状種）IIIランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が存在しないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																
			記事			記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・乾燥構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造（層理、葉理、級化など）	鉛直作業における特記事項・コア欠如、コア破砕など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・個、現品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を まとめて記載。・系統集合的な教的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ ペ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	堆積岩・岩種	破砕度区分・記号（Hc,Hb,Hi）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・破砕構造、複合面構造、累帯構造、網目状結土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉛直作業における特記事項・コア欠如、コア破砕など	記事を削除・変更・追記した理由
391	108.44	108.71	弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。	108.44	108.71	破砕部、最新活動面は上端（最も直線的な面）								-	-	-			-			-	-	-	-			・破砕部であるため、下記に詳細を追記した ・最新活動面の位置を追記した
392	-	-	-	108.44	108.63	粘土混じり破砕部（Hb） 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続、径2～10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い破砕構造が見える。含まれる細粒部は明目状で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-			-			○			-	-	-	-	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界、色調、内部構造、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
393	-	-	-	108.63	108.67	粘土質破砕部（Hi） 幅30mm程度、上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続、径10mm以下の粘土化した岩片主体、全体に軟質、上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-			-			○			○	-	-	-	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、異幅について追記した
394	108.67	108.71	褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。	108.67	108.71	漸変粘土状部（Hb） 褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。幅35mm程度。 上端57°で漸移的に、下端62°で境界は波打って連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は褐色汚染のため不明瞭。径10mm以下の岩片を含む。硬状構造が見られる。								-	-	-			-			○			○	-	-	-	・破砕部内物質、破砕度区分、上端下端境界の傾斜及び直線性、内部構造、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、異幅について追記した
395	108.67	108.71	（破砕度区分欄）Hi	108.67	108.71	（破砕度区分欄）Hb								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記に合わせて変更した
396	108.44	108.71	（コアの硬さ欄）Dランク （変質欄）3ランク	108.44	108.71	（コアの硬さ欄）Eランク （変質欄）4ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは極軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した ・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した
397	108.44	108.71	（岩級区分欄）D	108.44	108.71	（岩級区分欄）CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
398	108.71	109.79	割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	108.71	109.79	傾斜40～60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜を具体的に追記した
399	108.71	108.90	2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	108.71	108.90	直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・2方向の割れ目の交差関係について追記した
400	108.71	140.00	（変質欄）3ランク	108.71	140.00	（変質欄）2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
401	-	-	-	108.90	109.03	砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂礫状を呈することは周囲と異なる状況であるため追記した
402	-	-	-	109.41	109.41	傾斜45°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端側幅1.5cm程度は粘化し、にぶい橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土及びマンガンの挟在と粘化変質は周囲と異なる状況であるため追記した
403	-	-	-	109.76	109.79	傾斜50°の割れ目の間が幅2cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・強変質部は周囲と異なる状況であるため追記した
404	109.79	110.03	（割れ目状態欄）eランク	109.79	110.03	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
405	109.89	110.05	（コアの硬さ欄）Cランク	109.89	110.05	（コアの硬さ欄）Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
406	110.03	110.78	極細な割れが集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。	109.79	110.78	極細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・深度109.79m以深も極細な割れ目が発達しているため上端深度を変更した ・脚記の修正（割れ⇒割れ目）
407	-	-	-	109.79	110.38	傾斜60°程度の割れ目が複数分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した
408	110.68	110.78	（コアの硬さ欄）Bランク	110.68	110.78	（コアの硬さ欄）Cランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
409	110.68	110.78	（岩級区分欄）CL	110.68	110.78	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
410	111.07	111.12	（コアの硬さ欄）Cランク	111.07	111.12	（コアの硬さ欄）Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
411	111.12	111.22	（コアの形状欄）IVランク	111.12	111.22	（コアの形状欄）Vランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が発達しているためコアの形状のランクをVランクに変更した
412	-	-	-	111.22	111.59	傾斜80～90°程度の割れ目が複数分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した
413	111.57	111.57	付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
414	111.79	112.82	（コアの形状欄）IVランク （岩級区分欄）CM	111.79	112.82	（コアの形状欄）IIIランク （岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
415	112.84	113.03	高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。	112.84	113.03	傾斜60～80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色汚染が認められる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・脚記の修正（染⇒汚染）
416	113.41	113.54	割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5～30mm軟質、脆弱となる。	113.41	113.54	極細な割れ目がやや発達する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5～30mm軟質、脆弱となる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目の状態について追記した ・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った
417	113.41	113.54	（岩級区分欄）CL	113.41	113.54	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
418	114.42	114.57	（コアの形状欄）IVランク	114.42	114.57	（コアの形状欄）IIIランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した
419	114.57	114.76	割れ目が卓越する。114.60～114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は硬～岩片状となる。	114.57	114.76	割れ目が発達する。114.60～114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は硬～岩片状となる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った
420	114.57	114.76	（岩級区分欄）CL	114.57	114.76	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
421	115.40	115.54	115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。	115.40	115.54	115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱を中心に褐色化が顕著。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色化の原因が黄鉄鉱の分解によるものとは言い切れないため削除し、褐色化の分布状況について追記した
422	116.11	116.52	（岩級区分欄）CM	116.11	116.52	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
423	116.30	116.30	57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の挟在物が見られる。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
424	116.52	119.32	柱状～長柱状の堅硬なコアが主体となる。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○ 記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など）	鉱床作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の確認・採、現品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱現等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・長終毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や該在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hs） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質を細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造、複合面構造、葉等構造（割目状結土など）	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱床作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
425	117.83	117.83	50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる（緑泥石化作用）。割れ目の周囲には輝凍石が生じている。	117.83	117.83	50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる（緑泥石化作用）。割れ目の周囲には輝**凝灰岩**が生じている。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・輝凍石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、酸質サイトで見られる変質鉱物は酸性～中性のものが多いため、そのような環境で晶出する緑簾母の方が適切と判断して変更した
426	119.00	120.00	（RQD欄）32	119.00	120.00	（RQD欄）30								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脚記の修正（最大コア長が90cmであるためRQDも30になる）
427	119.65	119.83	割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の該在物が見られる。	119.65	119.83	割れ目がやや**発達**する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の該在物が見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った
428	119.65	120.10	（コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）CL	119.65	120.10	（コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
429	-	120.10	～120.10m：割れ目に沿って変質が見られ、幅2～4mm軟質となる。	120.05	120.05	傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目沿いの変質、軟質化について具体的に記載した ・粘土の該在は周囲と異なる状況であるため追記した
430	-	-	-	120.07	120.07	傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・粘土の該在は周囲と異なる状況であるため追記した
431	120.31	120.31	付近、85°の平行な割れ目が集中。砂～礫状の該在物が見られる。	120.31	120.31	付近、35°の平行な割れ目が集中。**砂～礫状の該在物が見られる。マンガンを挟む。**								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した ・砂～礫状の該在物は見られず、マンガンを挟在するのみであるため変更した
432	120.40	120.40	50°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質部と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。	120.40	120.40	40°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質部と厚さ2mmで**褐色化が顕著**に見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した ・水酸化鉄とは言い切れないため、顕著な褐色化に変更した
433	120.40	122.54	堅硬な柱～長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
434	120.67	120.69	（コアの形状欄）Ⅲランク	120.67	120.69	（コアの形状欄）Ⅱランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・120.69mに割れ目が確認できないため、コアの形状のランクの境界を変更した
435	121.16	121.32	（コアの形状欄）Ⅱランク	121.16	121.32	（コアの形状欄）Ⅲランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目が少し多くなるためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
436	121.60	121.60	割れ沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の該在物が見られる。	121.60	121.60	傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の該在物が見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・脚記の修正（割れ⇒割れ目）
437	121.60	121.74	（岩級区分欄）CM	121.60	121.74	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
438	122.46	122.46	割れ目の周囲が変質により緑色味を及びる。輝凍石が散在し光る。褐色汚染顕著。	122.46	122.46	傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を**帯**びる。**緑簾母**が散在し光る。褐色汚染顕著。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・脚記の修正（及び⇒割び） ・輝凍石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、酸質サイトで見られる変質鉱物は酸性～中性のものが多いため、そのような環境で晶出する緑簾母の方が適切と判断して変更した
439	122.54	122.78	（岩級区分欄）CL	122.54	122.78	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
440	122.54	123.84	鉱在化した割れ目の他、幾細な割れ目が多い。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
441	122.78	123.00	（割れ目状態欄）cランク	122.78	123.00	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・該在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
442	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1～6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である。	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1～6mmの**二酸化**マンガンが挟まる。割れ目が集中し脆弱である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の統一（マンガン） ・脚記の修正（集水⇒集中）
443	123.00	123.26	（岩級区分欄）CL	123.00	123.26	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
444	-	-	-	123.15	123.15	傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅2mm程度で褐色化している。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・粘土の該在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
445	123.15	124.30	（割れ目状態欄）cランク	123.15	124.30	（割れ目状態欄）bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・該在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
446	123.85	123.85	60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が該在する。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
447	124.09	-	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。～124.30mまでは割れ目に該在物が見られる。	124.09	125.20	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。**～124.30mまでは割れ目に該在物が見られる。**								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・柱状コアを基準する下端深度を追記した ・124.30m以浅の割れ目に該在物を伴うことは少ないため削除した
448	124.09	124.61	（コアの形状欄）Ⅱランク	124.09	124.61	（コアの形状欄）Ⅲランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
449	124.09	124.30	（岩級区分欄）CM	124.09	124.30	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上記の変更及び割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
450	124.61	124.77	（コアの形状欄）Ⅱランク	124.61	124.77	（コアの形状欄）Ⅳランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
451	125.20	125.37	（岩級区分欄）CM	125.20	125.37	（岩級区分欄）CH								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
452	125.37	125.37	付近、局所的に幾細な割れ目が集中する。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
453	126.34	126.69	柱状コアであるが、両端では認識できない潜在的な割れ目（へき開面）に沿って褐色汚染、汚染はコア全体に及ぶ。	126.34	126.69	柱状コアであるが、**両端では認識できない潜在的な割れ目（へき開面）に沿って**褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色汚染は潜在的な割れ目に沿っているわけではないため削除した ・文章の適正化
454	126.34	126.69	（岩級区分欄）CH	126.34	126.69	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
455	127.00	127.83	不規則で幾細な割れ目が卓越。	127.00	127.83	不規則で幾細な割れ目が**発達**。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った
456	127.05	127.30	軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
457	-	-	-	127.19	127.22	傾斜42°で幅0～10mm程度で局所的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・粘土の該在は周囲と異なる状況であるため追記した
458	127.60	127.83	（コアの形状欄）Ⅴランク （岩級区分欄）CL	127.60	127.83	（コアの形状欄）Ⅳランク （岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目は少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
459	128.26	128.76	幾細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。	128.26	128.76	幾細な割れ目が**多く**、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・文章の適正化
460	128.76	128.90	（岩級区分欄）CM	128.76	128.90	（岩級区分欄）CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
461	128.90	129.15	割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	128.90	129.15	一部の**傾斜30～45°**の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を具体的に追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名 H27-B-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													
	記事			記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）														破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海法度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、級化など	都道作業における特記事項・コア欠如、コア接続など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・高角度の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜・傾在物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	根腰岩・岩種	破砕度区分・記号（Hc,Hb,Hd）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし高温も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・線状構造、複合面構造、葉理構造、明目状結土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	都道作業における特記事項・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
462	129.52	130.08	（割れ目状態欄）cランク	129.52	130.08	（割れ目状態欄）bランク																				・検在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをcランクに変更した
463	129.52	129.84	（コアの形状欄）Ⅱランク	129.52	129.84	（コアの形状欄）Ⅱランク																				・割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した
464	－	－	－	129.98	130.50	傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。																				・高角度割れ目の発達は周囲と異なる状況であるため追記した
465	129.94	130.08	（岩級区分欄）CL	129.94	130.08	（岩級区分欄）CM																				・割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
466	130.02	130.42	高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部硬状となる。	130.02	130.42	80°の高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部硬状となる。																				・割れ目の傾斜を具体的に追記した
467	130.08	130.42	（岩級区分欄）CL	130.08	130.42	（岩級区分欄）CM																				・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
468	130.84	130.84	付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、硬状となる。	130.84	130.84	付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、硬状となる。																				・表現の適正化（交叉⇒交差）
469	131.54	131.64	コアの半分が劣化し硬状となる。	131.54	131.61	コアの半分が劣化し硬状となる。																				・コアに合わせて硬状部の下端深度を変更した
470	131.54	131.64	（コアの硬さ欄）Cランク（コアの形状欄）IVランク（割れ目状態欄）cランク（岩級区分欄）CL	131.54	131.64	（コアの硬さ欄）Bランク（コアの形状欄）Ⅲランク（割れ目状態欄）bランク（岩級区分欄）CH																				・コアは破質で、割れ目の分布は局所的で、検在物も伴わないため、コアの硬さ、コアの形状、割れ目状態のランクを変更した・上記の変更に伴い、岩級を変更した
471	131.75	131.83	（コアの形状欄）IVランク（岩級区分欄）CM	131.75	131.83	（コアの形状欄）Ⅲランク（岩級区分欄）CH																				・割れ目の分布は局所的であるためコアの形状のランクをⅢランクに変更した・上記の変更に伴い、岩級を変更した
472	131.75	132.14	（岩級区分欄）CM	131.83	132.14	（岩級区分欄）CH																				・上記の変更に伴い、上端深度を変更した・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
473	132.14	132.87	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	堅硬な柱状コア。																				・コアに合わせて柱状のコアの下端深度を変更した
474	－	－	－	132.31	132.31	傾斜25°、幅1～2mmの石英脈を挟む。																				・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
475	－	－	－	132.67	132.67	傾斜82°の割れ目が分布。																				・高角度の割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
476	132.67	133.59	（岩級区分欄）CM	132.67	133.59	（岩級区分欄）CH																				・深度133.12～133.59m間は割れ目状態のランクを変更したことにより、岩級を変更した・上記の変更により、深度132.67～133.12m間は区間長が50cm未満になるため、周囲の岩級に含めた
477	132.87	132.87	60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	45°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。																				・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した
478	132.99	133.59	（割れ目状態欄）cランク	132.99	133.59	（割れ目状態欄）bランク																				・検在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
479	133.12	133.90	（コアの形状欄）Ⅱランク	133.12	133.90	（コアの形状欄）Ⅲランク																				・潜在的な割れ目が分布するためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
480	133.26	133.26	割れ目間が硬状となり、硬には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	傾斜40～50°の割れ目間が硬状となり、硬には褐色の細粒物が付着する。																				・硬状となる区間の上端と下端の深度に変更した・割れ目の傾斜を具体的に追記した
481	－	－	－	133.90	133.90	傾斜72°の割れ目に沿って褐色化が顕著。																				・顕著な褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した
482	133.90	134.12	（コアの形状欄）IVランク（岩級区分欄）CM	133.90	134.12	（コアの形状欄）Ⅲランク（岩級区分欄）CH																				・本区間に割れ目は分布しないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した・上記の変更に伴い、岩級を変更した
483	134.02	134.50	強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	－	－	－																				
484	134.30	135.01	（コアの形状欄）IVランク（岩級区分欄）CM	134.30	135.01	（コアの形状欄）Ⅲランク（岩級区分欄）CH																				・割れ目は少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した・上記の変更に伴い、岩級を変更した
485	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、軽化し、原岩は上に硬い。	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、軽化し、原岩は上に硬い。																				・脈記の修正（及びる→等びる）・鉱物の輪郭が明瞭であるため軽化していないと判断して削除した・原質の粒径の区分が不明であるため、原岩との比較はできないことから記載を削除した
486	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染がまい範囲に及ぶ。	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が中途風化過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染が強い範囲に及ぶ。																				・白鉄鉱としたものは、中心の濃い褐色部が正方形に近い形状を呈するため黄鉄鉱であると判断して変更した。白鉄鉱は低温アルカリの環境で生成されるが、敷賀サイトの熱水変質鉱物は中性～弱性の環境下の鉱物（石英、緑泥石、セリサイトなど）が一般的であるため、高温酸性の環境で生成される黄鉄鉱が妥当であると判断した・表現の適正化（強い）
487	135.28	135.60	この間の低角度割れ目は2～3条の割れ目が2～4m程度の間隔で平行に接している。岩質は硬い。	135.28	135.60	この間の傾斜25°新鮮の割れ目は2～3条の割れ目が2～10cm程度の間隔で平行に分布している。岩質は硬い。																				・割れ目の傾斜を具体的に追記した・脈記の修正（2～4m→2～10cm：コアに合わせて数値を変更した）・表現の適切化（離離→間隔、平行に接して→平行に分布）
488	135.60	135.76	（コアの形状欄）IVランク	135.60	135.76	（コアの形状欄）Ⅲランク																				・割れ目は少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
489	136.00	136.20	高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目がやや連続する。割れ目にはマンガンに汚染された検在物が見られるものがある。	136.00	136.22	傾斜80°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交差し、割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された検在物が見られるものがある。																				・高角度の割れ目が分布する下端深度を変更した・高角度の割れ目の傾斜を具体的に追記した・高角度の割れ目が発達し、「複数」見られることを追記した・表現の適正化（交叉⇒交差、発達）
490	136.00	136.30	（岩級区分欄）CL	136.00	136.30	（岩級区分欄）CM																				・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
491	136.10	136.30	（コアの硬さ欄）Cランク	136.10	136.30	（コアの硬さ欄）Bランク																				・コアは破質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
492	136.22	136.30	（コアの形状欄）Vランク	136.22	136.30	（コアの形状欄）IVランク																				・割れ目は少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
493	136.22	136.64	（割れ目状態欄）cランク	136.22	136.64	（割れ目状態欄）bランク																				・検在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
494	136.34	136.34	38°の割れ目に沿って幅4mm程度緑色味を帯びた変質部（緑泥石化作用）が見られ、その中に小さな輝沸石が発在し光る。	136.04	136.04	38°の割れ目に沿って幅1cm程度緑色味を帯びた変質部（緑泥石化作用）が見られ、その中に小さな輝沸石が散在し光る。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。																				・脈記の修正（136.34⇒136.04、幅⇒幅1cm程度）・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、敷賀サイトで見られる変質鉱物は酸性～中性のものが多いため、そのような環境で晶出する鉱質母の方が適切と判断して変更した・粘土の挟在について追記した
495	－	－	－	136.10	136.10	傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で軽化し脆色している。																				・マンガンの挟在及び脆色化は周囲と異なる状況であるため追記した
496	－	－	－	136.21	136.22	傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1～3mmのマンガンを挟む。																				・マンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-4）

孔名：H27-B-4

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、間違の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や結かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、間題に属する状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・間題と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	間隙等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検在物の種類を網羅的に記載。 ・間題に属する状況や特徴がな割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりリジャンケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱播岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hs） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・現状構造、複合堆積造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	
497	136.50	136.64	（コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）CL	136.50	136.64	（コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CM								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
498	136.61	136.61	局所的（5～15mm幅）に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	局所的（5～15mm幅）に傾斜30～40°の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。								-	○		-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を具体的に追記した
499	136.64	137.02	（コアの形状欄）Dランク （岩級区分欄）CM	136.64	137.02	（コアの形状欄）Bランク （岩級区分欄）CH								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目は少ないためコアの形状のランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
500	137.02	138.59	堅硬な柱状コア	-	-	-								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		
501	138.01	138.16	極細でほぼ平行した割れが非常に卓越。	138.01	138.16	極細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2～3mmの灰黄色粘土を挟む。								-	○		-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・粘土の修正（割れ→割れ目） ・表現の適正化（非常に卓越→非常に多い） ・粘土の検在について追記した
502	138.01	138.47	（岩級区分欄）CL	138.01	138.47	（岩級区分欄）CM								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、間違の岩級に含めた
503	138.29	138.29	巾10mmで平行した割れ目が非常卓越する。	138.28	138.29	幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集する。								-	○		-	-	-	-	-	-	-	-		・幅が10mmあるため、コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の統一（巾→幅） ・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・表現の適正化（非常卓越→密集）
504	138.29	138.47	（割れ目状態）cランク （岩級区分欄）CL	138.29	138.47	（割れ目状態）bランク （岩級区分欄）CM								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・検在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
505	139.00	139.47	（コアの形状欄）Dランク （岩級区分欄）CM	139.00	139.47	（コアの形状欄）Bランク （岩級区分欄）CH								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目は少ないためコアの形状のランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
506	139.47	139.72	（岩級区分欄）CM	139.47	139.72	（岩級区分欄）CL								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、下位の岩級に含めた
507	-	-	-	139.50	139.90	傾斜70°程度の極細な割れ目が多い。								-	○		-	-	-	-	-	-	-	-		・高角度の割れ目が発達することは間違と異なる状況であるため追記した
508	139.72	140.00	（コアの硬さ欄）Cランク	139.72	140.00	（コアの硬さ欄）Bランク								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
509	139.90	139.90	70°のシャープな剪断性の節理、巾10mmの砂状とマンガンの検在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。	139.90	139.90	70°のシャープなせん断性の節理、幅10mmの砂状とマンガンの検在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。検在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。								-	○		-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の統一（せん断、巾→幅） ・上端側がおずれも上盤とは限らないため上端に変更した ・検在物内の粒子の定向配列及び節理の周辺岩盤の原岩組織の有無について追記した ・追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した
510	140.00	140.00	検尺	~~140.00~~	~~140.00~~	検尺								-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		・コア観察の情報ではないため削除した

余白

H24－D1－5

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 H24-D1-5

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、層厚の状況が薄様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード																	記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を太書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)													破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	適切変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かく互層など見本帳に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の程度及び粒形、含有物(有機質、異型など)を網羅的に記載。 ・その他、層厚に関係なく状況が特徴的な状況があれば、必要に応じて、複数、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱成作業における特記事項 ・コアロス、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を研磨的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩色の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載事項	流理構造	断層等の割れ目 ・問為破の割れ目の特徴を持つ区間を定めて記載。 ・系統為の代表的な割れ目の見かけの傾斜や傾在物の種類を網羅的に記載。 ・層厚に関係なく状況が特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	風物側 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	堆積岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hb') ・試料毎の試間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・組状構造、複合面構造、葉理構造、明瞭状結土など	最新活動面(既定した場合)	空隙の状況	鉱成作業における特記事項 ・コアロス、コア破砕など	
1	-	-		0.00	7.41	盛土																								・表現の統一(盛土) ・人工堆積物の区間を追記した
2	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる堆積土。1m以浅で φ10～40mmのGo岩片、コンクリート片などを含む。	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる。堆積土。1m以浅で φ10～40mmのGo岩片、黒色砂岩片などを含む。			○																				・表現の統一(0.00) ・新規の修正(－→○) ・人工堆積物の地質名の記載を削除した ・コアに合わせて含有物を変更した ・1m以深にも径10～20mm程度の礫が見られるため、「1m以浅」を削除した
3	0.00	3.00	(地質名欄)粗砂	0.00	3.00	(地質名欄)盛土																								・表現の統一(盛土)
4	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる改良土で、粗砂の基質は比較的よく締っている。7.00～7.20mはルーズな砂質分中心。φ2～5mmの石英粒、長石粒とφ5～120mmのGo主体の礫で、少量のGr、緑色片を含む。礫は硬質主体で一部ネクサリで、亜角礫～亜円礫である。礫含有率は30～40%で、7.20～7.41mは20%と低下している。	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる。粗砂の基質は比較的よく締っている。7.00～7.20mはルーズな砂質分中心。φ2～5mmの石英粒、長石粒とφ5～120mmのGo主体の礫で、少量のGr、黒色砂岩片を含む。礫は硬質主体で一部ネクサリで、亜角礫～亜円礫である。礫含有率は30～40%で、7.20～7.41mは20%と低下している。	○	○	○																				・人工堆積物の地質名の記載を削除した ・砂石を砂礫に変更した
5	3.00	7.41	(地質名欄)砂礫	3.00	7.41	(地質名欄)盛土																								・表現の統一(盛土)
6	7.41	7.41	基盤	-	-																									
7	-	-	φ1～10mm石英、長石の粗晶からなる花崗斑岩(Go)	7.41	8.00	花崗斑岩 φ1～10mm石英、長石の粗晶を5～15%程度含む。1mm以深は粗晶の量がなくアプライト体を呈する部分もある																								・地質名及び区間深度を追記した ・含まれる鉱物の含有量及びアプライト体を呈する区間を追記した
8	7.41	8.51	風化で著しく軟化するが、岩組織はほぼ残留、割れ目は一部は消滅～消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石粗晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土質は殆どが無しない。割れ目は30～50°主体で、割れ目開端は5～10mmは褐色化することが多い。	7.41	8.51	上端には幅1cm程度のセルタルが付着している。風化で著しく軟質化するが、原岩組織はほぼ残留割れ目は一部は消滅～消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石粗晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土質は殆どが無しない。割れ目は30～50°主体で、割れ目開端は5～10mmは褐色化することが多い。			○																				・上端のセルタル付着について追記した ・表現の適正化(軟質化、原岩組織、注記) ・脈記の修正(「幅」の記載漏れ)
9	7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目で、交差する50°、幅2mの石英脈を切っている(変位量5mm右ズレ)	7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目で、交差する50°、幅2mの石英脈をよめている。切っている変位量5mm右ズレ。割れ目には接合物が認められない。割れ目面の状態には原岩組織が認められ、長続的な割れ目も存在しない。																								・せん断性割れ目が石英脈を横断しているように見えるため「切っている」を「よめている」に変更し、表現量についての記載を削除した。 ・割れ目及び開端の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性割れ目」を削除した。
10	-	-	-	7.89	7.89	頻斜50°の割れ目に幅1～3mm程度のマンガンを挟み、割れ目開端は幅1～5mm程度で褐色化している。																								・マンガンを伴う割れ目は層厚と異なる状況であるため追記した
11	-	-	-	8.03	8.08	マンガン汚染が顕著で、幅2～16mmの岩片を15～20%程度含む。																								・マンガン汚染は層厚と異なる状況であるため追記した
12	8.48	8.48	43°で幅5～10mmが緑灰色化(緑泥石化)。粘土化は伴なわない。	8.48	8.48	43°で幅5～10mmが緑灰色化(緑泥石化)。粘土化は伴わない。																								・表現の適正化(伴う)
13	8.51	8.71	破砕帯	8.51	8.71	破砕部																								・用語の統一(破砕帯→破砕部)
14	8.51	8.66	Hb 上端55°、下端50°で、上端は比較的直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。φ5mm前後の細粒が消滅した軟化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布するφ2～3mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土脈からなり粘土質(リ岩片状を呈す)。φ1～4.5mmの粘土質が埋入している。色調は、淡黄～にぶい橙(7.5Y8/4)で、厚さは140mm(コア長)	8.51	8.66	Hb 上端55°、下端50°で、上端は比較的直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。φ5mm前後の細粒が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布するφ2～3mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土脈からなり粘土質(リ岩片状を呈す)。φ1～4.5mmの粘土質が埋入している。やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は、淡黄～にぶい橙色(7.5Y8/4)で、厚さは140mm(コア長)																						・修正、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・薄さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・表現の適正化(ほぼ、やや、混じり、組織→原岩組織、軟質化、軟質→軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
15	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端40°で、上端はやや不明瞭に、下端はやい波打って連続。φ2～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGo岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/3)色の礫質粘土で、厚さは25～30mm。	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端40°で、上端はやや不明瞭に、下端はやや波打って連続。φ2～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGo岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/3)色の粘土質礫状部で、厚さは25～30mm。 含まれる細粒部は明良状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																						・修正体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、軟質→軟質)
16	8.69	8.70	Hc-1(せん断面<10mm) 上端40°、下端40°で、異色ともやい波打って連続する。φ1mm以下の微小な石英を少量含む。軟質な明赤灰(2.5YR7/2)粘土。厚さ3～8mm。	8.69	8.70	Hc-1(最新活動面<10mm)(黒も直線的な面) 上端40°、下端40°で、上端はやや波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm以下の微小な石英を少量含む。軟質な明赤灰色(2.5YR7/2)粘土。厚さ3～8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																						・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の直線性を追記した ・下盤境界は上端境界に比べて明瞭で直線的であるため下盤境界の直線性を変更した ・表現の適正化(軟質→軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
17	8.70	8.71	Hb 上端50°、下端65°で、上端はやい波打って、下端は比較的直線的でシャープに連続する。φ1～2mm石英粒と、φ3～5mm前後の粘土化したGo岩片からなる軟質なにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する粘土質礫状部。厚さは1～10mm。	8.70	8.71	Hb 上端50°、下端65°で、上端は直線的に、下端は比較的直線的でシャープに連続する。φ1～2mm石英粒と、φ3～5mm前後の粘土化したGo岩片からなる軟質なにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する粘土質礫状部。厚さは1～10mm。 含まれる細粒部は明良状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																						・修正体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・Hc-1の下端境界の直線性の変更に伴い、上端境界の直線性を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(ほぼ、軟質→軟質)
18	8.71	10.19	著しく軟化し、原組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅している。8.90～8.90mで30～40°とこれに斜交～直交する50～70°割れ目の一部が残留している。	8.71	10.19	著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅している。8.90～10.19mで30～40°とこれに斜交～直交する50～70°割れ目の一部が残留している。																								・コアに合わせて割れ目が残留している区間を変更した ・表現の適正化(軟質化、原岩組織)
19	10.19	10.21	破砕帯(H-3)(破砕帯)	10.19	10.21	破砕部(H-3)(破砕部)																								・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕帯名は評価しるために削除した
20	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端26°で、上端は直線的でシャープに下端はやい波打って連続。φ1～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGo岩片を含む粘土質礫状部で、粘土は原色を留し軟質である。厚さは5～10cm。	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端26°で、上端は直線的でシャープに下端はやい波打って連続。φ1～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGo岩片を含む粘土質礫状部で、粘土は原色を留し軟質である。厚さは5～10cm。 含まれる細粒部は明良状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																						・修正体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(やや、軟質→軟質)
21	10.20	10.21	Hc-1(主せん断面<1.21m) 上端38°、下端40°で、上端は波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を散平含む灰白(2.5Y8/2)～上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟質な粘土である。厚さは4～6mm。	10.20	10.21	Hc-1(最新活動面<10.21m) 上端38°、下端40°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を散平含む灰白(2.5Y8/2)～上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟質な粘土である。厚さは4～6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																						・最新活動面という用語に統一 ・上端境界の性状を上位のHc境界の性状に合わせて変更した ・見出しに最新活動面の深度を記載していたが「下端が主せん断面であるとを削除した。 ・表現の適正化(軟質→軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 H24-D1-5

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、隣際の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間の種類及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、隣接と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 (層理、葉理、級化など)	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア損傷など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・隣接と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、斑晶の種類・径、斑晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熟理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挨在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目面の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(ス(リッ)クンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・被覆岩 ・岩種	破砕帯区分 ・記号(Hs,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、現会面構造、岩等構造、網目状組工など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア損傷など	記事を削除・変更・追記した理由
22	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60～70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層をささむことが多い。10.37m～65°割れ目以深では色調が上位のにぶい橙から橙色に変化し、岩片も硬さのも多くなり、粘土層は分布しなくなる。10.37m～65°割れ目には幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層をはさみ、上盤側約5mがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	著しく軟質化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60～70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層を挟むことが多い。10.37m～65°割れ目以深では色調が上位のにぶい橙から橙色に変化し、岩片も硬さのも多くなり、粘土層は分布しなくなる。10.37m～65°割れ目には幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層を挟み、上端側約5mがマンガン鉱染により黒褐色化する。																									・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む) ・誤記の修正(硬さDも⇒硬さDが、「幅」の記載漏れ) ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。
23	10.45	10.50	破砕帯(H-4 破砕帯)	10.45	10.50	破砕部(H-4 破砕帯)																					・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・破砕帯名は詳細であるため削除した
24	10.45	10.45	Hc-1(主せん断面) 30°で直線的でシャープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土で主せん断面である。	10.45	10.45	Hc-1(最新活動面) 30°で直線的でシャープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土、ただせん断面のみ。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																					・最新活動面という用語に統一 ・見出しに最新活動面の深度を記載しているため削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
25	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1～2mm石質粒と、φ5～10mm～長さ10～20mm・幅5～10mmの細平板状に伸びた(Cu)開き多く含む軟質な暗黄褐色～灰白色(7.5YR6/2)～にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40～45mm。	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1～2mm石質粒と、φ5～10mm～長さ10～20mm・幅5～10mmの細平板状に伸びた(Cu)開き多く含む軟質な暗黄褐色～灰白色(7.5YR6/2)～にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40～45mm。 著すれる細粒部は明目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。																									・硬さ体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・Φ5～10mmと幅5～10mmはほぼ同じ意味合いで記載が重複しているため削除した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・復雑性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
26	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク																					・周囲と比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをVランクに変更した
27	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Eランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク																					・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
28	10.51	12.00	硬さDで軟質であるが岩組織と割れ目は明瞭に残留している。割れ目は40～50°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm軟質の白色軟質粘土層をはさむことが多い。	10.50	12.00	硬さDでやや軟質であるが原岩組織と割れ目は明瞭に残留している。割れ目は40～60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm軟質の白色軟質粘土層を挟むことが多い。																					・破砕部の下端が10.50mであり、1cmの隙間を設ける理由が分かいため上端深度を変更した ・コアに合わせて硬軟を変更した ・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・表現の適正化(原岩組織、ほぼ、挟む、沿い、軟質⇒軟質)
29	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク																					・割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
30	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Dランク	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Cランク																					・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
31	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Dランク	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Cランク																					・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
32	11.90	11.95	45～50°割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10	11.95	11.10～11.11m、11.90～11.95mに45～50°割れ目沿いにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。																					・11.10～11.11mにもマンガン鉱染が見られるため追記した ・表現の適正化(沿い)
33	12.00	12.61	50～60°が散末分布するのである。ただし、不整刷状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土膜の挟在は少ない。	12.00	12.61	50～60°の割れ目が散末分布するのみである。ただし、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で最5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土膜の挟在は少ない。																					・誤記の修正(「割れ目」「任」の記載漏れ) ・表現の適正化(ただし、沿い)
34	12.18	12.61	(割れ目状態欄)cランク	12.18	12.61	(割れ目状態欄)bランク																					・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
35	12.61	14.19	40～60°割れ目が主体で、これらに斜交～直交する20～40°割れ目も多い。13.80～14.19mには50～85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化～φ5～10mm細片化する。粘土層はほとまない。	12.61	14.19	40～60°割れ目が主体で、これらに斜交～直交する20～40°割れ目も多い。13.80～14.19mには50～85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化～φ5～10mm細片化する。粘土層は挟まない。																					・表現の適正化(挟む)
36	14.19	16.18	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの挟在物はない。割れ目は50°以下が多い。 15.53～15.92mは風化で表面が褐色化(にぶい褐色:7.5YR5/3)するが、堅硬で劣化はない。 15.40～15.65mに10～30°の、15.10～15.40mに85～90°のいずれも低密着割れ目が分布する。	-	-	-																					
37	14.19	14.72	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CH	14.19	14.72	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CM																					・挟在物を伴う割れ目が多いため割れ目状態のランクをcランクに変更した ・割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
38	15.00	15.30	(コアの形状欄)Dランク	15.00	15.30	(コアの形状欄)Eランク																					・割れ目がほとんど存在しないためコアの形状のランクをEランクに変更した
39	15.53	15.92	(色調欄)7.5YR5/1褐灰	15.53	15.92	(色調欄)7.5YR5/3にぶい褐																					・コアに合わせて色調を変更した
40	15.70	15.92	(コアの形状欄)Dランク	15.70	15.92	(コアの形状欄)Eランク																					・割れ目がほとんど存在しないためコアの形状のランクをEランクに変更した
41	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。50～60°割れ目が主体である。粘土層はほとまない。	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目沿いの一部やコア表面の一部が砂状化する。50～60°割れ目が主体である。粘土層は挟まない。																					・表現の適正化(挟む、沿い)
42	16.18	16.72	(割れ目状態欄)cランク	16.18	16.72	(割れ目状態欄)bランク																					・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
43	16.18	17.14	(岩級区分欄)CL	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM																					・上記の変更に伴い、岩級を変更した
44	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40～50°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土膜もはさまない。 17.07m～50°幅1～2mでやや風化しながら右美線が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40～50°割れ目が平行に分布し、割れ目沿いの砂状化はなく、粘土膜も挟まない。 17.07m～50°幅1～2mでやや風化しながら右美線が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。																					
45	17.14	18.17	上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化～φ3mm軟質で細片化する。粘土膜の挟在は少ない。割れ目は30～50°が主体で一部でこれらに斜交～直交する60～70°割れ目も分布する。 18.05～18.09m、割れ目の褐色化進む。	-	-	-																					
46	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40～50°割れ目～低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部はφ5～φ5mm軟質に細片化する。粘土膜は18.28m～35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40～50°割れ目～低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部はφ5～φ5mm軟質に細片化する。粘土膜は18.28m～35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。																					・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
47	18.64	18.78	18.72m～35°、幅3～4mmの軟質な灰赤色(2.5YR6/2)粘土膜が直線的でシャープに連続、その上下限側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土膜が平行に分布し、全体が著しく軟質化している。	18.64	18.78	18.72m～35°、幅3～4mmの軟質な灰赤色(2.5YR6/2)粘土膜が直線的でシャープに連続、その上下限側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土膜が平行に分布し、全体が著しく軟質化している。																					・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、軟質化)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-5）

孔名 H24-D1-5

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）														破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・見掘の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫数、海決度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱滓作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など		地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・程、岩品の含有率などを記載	色調 ・見掘の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や開き等の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hi） ・区分毎の該当深度	破砕度区分の補足説 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、柔剛構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱滓作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
48	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40～60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土膜もはさまれない。	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40～60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土膜も挟まれない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む）
49	18.90	19.03	硬さCの岩片が分布する。	-	-	-										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50	19.11	20.10	40～60°割れ目が主体で、一部で、これらに10～30°で斜交～直交する。19.67m以浅は硬さC、19.67m以深は硬さBと変硬となる。硬さB＆含め、割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土膜は分布しない。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
51	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mm長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mmカリ長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて鉱物名を変更した ・ペグマタイトであるため「質部」は削除した
52	19.56	19.66	58°はせん断性割れ目で、交差する10°割れ目を切り（変位量2mm左ズレ）、ペグマタイトの石英質品を切断している。	19.66	19.66	58°のせん断性割れ目は連続せず、交差する10°割れ目を横断している。も切り（変位量2mm左ズレ）、ペグマタイトφ20石英質品も切断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・58°の割れ目は連続しない、また、10°の割れ目が横断しているため「切り」及び、変位量の記載は削除した ・石英質品の切断は見られない ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
53	19.37	19.97	80°、幅0.5～1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
54	20.10	20.46	40～60°の割れ目と低密着割れ目が幅約1～3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土膜の挟在は殆んどない。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
55	20.11	20.11	60°割れ目はマンガン鉱染を受け高褐色化する。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
56	20.46	20.85	一部に硬さBの堅硬部も含むが、硬さCが主体。50～60°割れ目主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1～2mmの軟弱な白色～淡黄色（2.5Y7/3）粘土膜をはさむことが多い。	20.46	20.85	一部に硬さBの堅硬部も含むが、硬さCが主体。50～60°割れ目主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1～2mmの軟質な白色～淡黄色（2.5Y7/3）粘土膜を挟むことが多い。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、軟弱⇒軟質、挟む）
57	20.65	20.80	20.65m～20.80m間の割れ目はマンガン鉱染で高褐色化する。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
58	20.85	21.43	硬さBで堅硬。 20～30°とこれに斜交する50～60°割れ目が主体で、一部で同角の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物はない。	20.85	21.43	硬さBで堅硬。 20～30°とこれに斜交する50～60°割れ目が主体で、一部で同角度の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物はない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（同角⇒同角度）
59	21.06	21.15	21.06m･30°と21.15m･50°の各割れ目はマンガン鉱染で高褐色化。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60	21.33	21.33	60°はせん断性割れ目で、交差する20°割れ目を切っている（変位量8mmも右ズレ）	21.33	21.33	60°のせん断性割れ目は、交差する20°割れ目及び21.38mの褐色化した割れ目を横断している。も切っている（変位量8mm右ズレ） 割れ目には挟在物が認められない、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・20°割れ目は60°割れ目を横断している。また、21.38mの褐色化した割れ目も横断していたが「切っている」及び変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・割れ目及びその周辺の状況よりせん断性ではないため「せん断性」を削除した
61	21.43	21.50	20～30°と50～60°割れ目が5～10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの白色軟質粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	20～30°と50～60°割れ目が5～10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの白色軟質粘土がわずかに付着する。										-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化、軟弱⇒軟質）
62	21.43	21.50	（割れ目状態）cランク （コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）bランク （風化欄）bランク	21.43	21.50	（割れ目状態欄）bランク （コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）bランク （風化欄）bランク										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が10cm未満であるため周囲のランクに含めた
63	21.50	21.81	割れ目なくわずかに低密着割れ目を含む。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
64	21.50	21.81	（コアの形状欄）Ⅱランク	21.50	21.81	（コアの形状欄）Ⅱランク										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・記事欄の記載に合わせて変更した
65	21.81	22.43	10～40°とこれに斜交する40～60°割れ目が主体。22.10m･70°ではこく薄く砂状化、22.36m･50°には幅1～2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	10～40°とこれに斜交する40～60°割れ目が主体。22.10m･70°ではこく薄く砂状化、22.36m･50°には幅1～2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟弱⇒軟質）
66	-	-	-	22.28	22.28	傾斜40°、幅2～3mmでカリ長石の凝集部が断続に分布。										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・カリ長石の凝集部は周囲と異なる状況であるため追記した
67	22.43	22.91	45°軟質の割れ目が主体で、一部これに斜交する10～20°割れ目と低密着割れ目が分布する。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
68	22.43	22.91	（コアの形状欄）Ⅱランク （岩級区分欄）CH	22.43	22.91	（コアの形状欄）Ⅳランク （岩級区分欄）CM										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した
69	22.52	22.55	15～20°割れ目ぞいる10mm前後で細片化。	22.52	22.55	15～20°割れ目沿いる10mm前後で細片化。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
70	22.56	22.56	58°幅1mm石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-										-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
71	22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部をはさむ。	22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む）
72	22.91	22.94	（割れ目状態）dランク （コアの形状欄）Ⅵランク （コアの硬さ欄）bランク （風化欄）bランク （岩級区分欄）CH	22.91	22.94	（割れ目状態欄）bランク （コアの形状欄）Ⅳランク （コアの硬さ欄）bランク （風化欄）bランク （岩級区分欄）CM										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が10cm未満であるため周囲のランクに含めた
73	22.91	22.94	50～55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状～細片状化。粘土は殆んど含まない（わずかに幅1mm･長さ20mmで軟質な白色粘土が分布）	22.91	22.94	50～55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状～細片状化。粘土は殆んど含まない（わずかに幅1mm･長さ20mmで軟質な白色粘土が分布）										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟弱⇒軟質、細片状化⇒細片化） ・文章の適正化（「殆んど含まない」と「わずかに・・・分布」は同義であるため、前者を削除した）
74	23.94	23.60	堅硬で割れ目が少ない（Ⅱ）。 20～30°とこれにほゞ直交する50～60°割れ目からなり、割れ目挟在物はない。	22.94	23.60	堅硬で割れ目が少ない（Ⅱ）。 20～30°とこれに斜交する50～60°割れ目が分布し、割れ目挟在物はない。										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（23.94⇒22.94） ・表現の適正化（ほぼ） ・文章の適正化（割れ目からなる⇒割れ目が分布する）
75	23.45	-	23.45m以深でコア表面は風化でにぶい橙色を帯びる。	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で暗状ににぶい橙色を帯びる。										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（で⇒は） ・暗状に褐色化している旨を追記した
76	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙色を帯びるが、劣化はない。30～45°とこれに斜交～直交する50°割れ目からなる。 （以下は24m以深のコアで書き加える）	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙色を帯びるが、劣化はない。30～45°とこれに斜交～直交する50°割れ目が分布する。 （以下は24m以深のコアで書き加える）										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化（割れ目からなる⇒割れ目が分布する） ・「（以下は24m以深のコアで書き加える）」は不要な記載であるため削除した
77	23.96	24.47	割れ目が少なく、上端、下端と24.26m に40～50°割れ目計3本が主体で、割れ目には挟在物は分布しない。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 :H24-D1-5

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、層際の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
	記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)															破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	地質名<・薄層や細かい互層など記事欄に記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴<・粒度構成、標の種類及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。<・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造<・層理、葉理、級化など	観測作業における特記事項<・コア欠如、コア接乱など	地質名<・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。<・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	処理等の割れ目<・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。<・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や床在物の種類を網羅的に記載。<・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	流理構造	鉱物脈<・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕幅(実測できる場合)	破砕度区分<・記号(Hc,Hb,Hj)<・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面<・見かけの傾斜<・性状	破砕部<・色調<・破砕部内物質<・硬軟<・相粒部の直線性・連続性<・原岩組織が認められる岩片を主体とし長英も相粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造<・破状構造、複合面構造、葉幕構造、網目状組織など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	観測作業における特記事項<・コア欠如、コア接乱など	
78	24.47	25.80	岩片は硬さB堅硬であるが、30～50°の割れ目、低密毒割れ目が10～60mm間隔で(ほぼ平行に分布する。	岩片は硬さB堅硬であるが、30～50°の割れ目、低密毒割れ目が10～60mm間隔で(ほぼ平行に分布する。	24.47	25.80																						・表現の適正化(ほぼ)
79	25.30	25.32	砂状～φ5mm細片化するB以外は、割れ目には殆んど挟在物は分布しない。	砂状～φ5mm細片化するB以外は、割れ目には殆んど挟在物は分布しない。	25.30	25.32																						・コアに合わせて追記した ・区間以外の記載は削除した
80	25.46	25.69	(割れ目状態)Ⅳランク (コアの形状欄)Ⅳランク	(割れ目状態)Ⅴランク (コアの形状欄)Ⅴランク	25.46	25.69																						・挟在物を伴う割れ目が多く、周囲より割れ目が多いため割れ目状態、コアの形状のランクを変更した
81	25.80	26.95	30～50°割れ目とわずかな低密毒割れ目がほぼ平行で、10～15cm間隔主体で分布する。一部では、φ30～50°割れ目と斜～直交するφ10～50°割れ目も分布し、26.41m～26.47mで両系の割れ目が交差し、φ20～30mmの硬質岩片に細片化するが、砂～粘土化は伴なわない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴なわない。	30～50°割れ目とわずかな低密毒割れ目がほぼ平行で、10～15cm間隔主体で分布する。一部では、φ30～50°割れ目と斜～直交するφ10～50°割れ目も分布し、26.41m～26.47mで両系統の割れ目が交差し、φ20～30mmの硬質岩片に細片化するが、砂～粘土化は伴なわない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴なわない。	25.80	26.95																						・表現の適正化(ほぼ、伴う、両系⇒両系統、粘土化⇒粘土化部)
82	26.13	26.37	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	26.13	26.37																						・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
83	26.95	27.20	割れ目間隔3～10cmとやゝ割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	割れ目間隔3～10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	26.95	27.20																						・表現の適正化(やや)
84	27.05	27.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	(コアの形状欄)Ⅲランク	27.05	27.20																						・割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
85	27.20	28.48	コア長20cm以上が主体で、硬さBと堅硬。0～10°割れ目主体で挟在物も分布しない。	-	-	-																						
86	27.95	28.05	(コアの形状欄)Ⅱランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.95	28.05																						・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
87	28.48	30.20	40～50°割れ目主体で、ほゞ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴なわない。また粘土や粘土脈も挟在しない。 格々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	40～50°割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが砂状化などの劣化は伴なわない。また粘土や粘土脈も挟在しない。 所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.48	30.20																						・表現の適正化(ほぼ、伴う、所々)
88	28.66	30.20	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.66	30.20																						・上位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
89	28.66	30.77	(岩級区分欄)CH	(岩級区分欄)CM	28.66	30.77																						・上記の変更に伴い、岩級を変更した
90	29.20	-	29.20m以深では、一部に40～50°とこれらに斜交～直交する低密毒割れ目も含み、ハンマーの打撃で10mm以下に分離することがある。	-	-	-						○	○															
91	28.48	-	28.48m以深は風化でコア表面の一部はにぶい橙色を呈するが、砂状化などの劣化はなく硬さBで堅硬である。	-	-	-																						
92	30.20	30.35	30～40°割れ目が5～20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	30～40°割れ目が5～20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	30.20	30.35																						・表現の適正化(軟質化)
93	30.20	30.35	(コアの形状欄)Ⅳランク	(コアの形状欄)Ⅴランク	30.20	30.35																						・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
94	30.35	30.77	硬さBで堅硬。 割れ目少なく、20～40°主体。割れ目には挟在物は分布しない。	硬さBで堅硬 30.57m以深は割れ目少なく、20～40°主体。割れ目には挟在物は分布しない。	30.35	30.77																						・割れ目が少なくなる深度を追記した
95	30.35	30.57	(コアの形状欄)Ⅲランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.35	30.57																						・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
96	30.77	31.57	風化でやゝ軟化し、硬さDとなる。30～50°割れ目と一部でこれらに斜交～直交するφ30～50°割れ目も分布する。また、同角の低密毒割れ目も31.40～31.60mを中心に分布する。割れ目ずれに沿く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。	風化でやや軟質化し、硬さDとなる。30～50°割れ目と一部でこれらに斜交～直交するφ30～50°割れ目も分布する。また、同角度の低密毒割れ目も31.40～31.57mに多く分布する。割れ目ずれに沿く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。	30.77	31.57																						・表現の適正化(やや、軟質化、沿い、同角度) ・コアに合わせて低密毒割れ目が多く分布する下端深度を変更した
97	31.06	31.06	50°、幅1～2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した軟質な粘土脈が分布。	50°、幅1～2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した軟質な粘土脈が分布。	31.06	31.06																						・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
98	31.25	31.40	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Cランク	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク	31.25	31.40																						・周囲と比べて割れ目が少なく、コアはやや硬質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した
99	31.42	31.52	31.42m～35°、31.52m～45°の各割れ目下盤側に幅2m、30mmが砂状化する。	31.42m～35°、31.52m～45°の各割れ目下端側に幅2mm、幅30mmが砂状化する。	31.42	31.52																						・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。 ・脈記を修正した(m⇒mm、「幅」の記載漏れ)
100	31.44	31.44	40°割れ目の下盤側10～20mマンガン鉱染で黒褐色化。	40°割れ目の下端側幅10～20mmマンガン鉱染で黒褐色化。	31.44	31.44																						・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。 ・脈記を修正した(m⇒mm、「幅」の記載漏れ)
101	31.57	32.68	風化は弱くなり、硬さCを主体。一部で硬さBの堅硬部も含む。30～50°割れ目主体。	-	-	-																						
102	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Cランク	(コアの硬さ欄)Bランク	31.97	32.09																						・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
103	32.14	32.14	50°割れ目は2～4mm砂状化～φ2～3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	50°割れ目は幅2～4mm砂状化～φ2～3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	32.14	32.14																						・脈記の修正(「幅」の記載漏れ) ・深度32.14m以外の記載は削除した
104	32.68	32.76	上下端を45°割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	上下端を45°割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質褐色(10YR 7/6)軟質粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76																						・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
105	32.76	33.96	硬さBと堅硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部をはさむ。割れ目は40～70°が主体で、一部にこれに斜交～直交するφ10～40°も分布する。また、同角の低密毒割れ目も33.40～33.60mを中心に分布する。	硬さBと堅硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40～70°が主体で、一部にこれに斜交～直交するφ10～40°も分布する。また、同角度の低密毒割れ目も33.40～33.60mに多く分布する。	32.76	33.96																						・表現の適正化(挟む、同角度) ・文章の適正化(中心に⇒多く)
106	33.80	33.80	50°はせん断性割れ目で、交差するφ25°割れ目を切っている(変位量15mm右ズレ)。	50°のせん断性割れ目は、交差するφ25°割れ目を切っている。切っている割れ目変位量15mm右ズレ。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	33.80	33.80																						・25°の切られているとした割れ目は、岩形が異なり、一連の割れ目ではないため「切っている」を「とめている」に変更し、変位量についての記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
107	33.86	33.86	25°幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-																						
108	33.96	33.96	55°割れ目上盤側幅10～20mm軟質なマンガン鉱染受け。下盤側はやゝ軟質化(D)	55°割れ目上端側幅10～20mm軟質なマンガン鉱染受け。下端側はやや軟質化(D)	33.96	33.96																						・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(やや)
109	33.96	36.00	35.08m以浅は風化で割れ目の多くは割れ目ずれに砂状化し、幅1mm軟質の軟質な白色～明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈を挟むことが多い。35.08m以浅の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20～40°が主体で、これらに斜交する40～70°割れ目も分布する。35.08m～36°幅4mmの軟弱な明赤灰(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	35.08m以浅は風化で割れ目の多くは割れ目沿いに砂状化し、幅1mm軟質な軟質な白色～明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈を挟むことが多い。35.08m以浅の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20～40°が主体で、これらに斜交する40～70°割れ目も分布する。35.08m～36°幅4mmの軟質な明赤灰色(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08																						・表現の適正化(挟む、沿い、軟弱⇒軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・35.08m以浅の区間深度を変更し、「35.08m以浅」を削除した。
110	35.00	35.08	(変質欄)2ランク	(変質欄)3ランク	35.00	35.08																						・上位と問様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 H24-D1-5

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)													破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、地の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	根源作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明瞭的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・径、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造 ・流理等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や夜在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目がある場合は、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のテペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物測 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	岩種 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hb) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし高質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・原状構造、複合面構造、葉構造、明日状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉱造作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
111	35.08	-	35.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、跡れ目の多くは砂状化したり、φ5～10mmで細片化する。粘土化部や粘土質は少ないし、10～40°跡れ目と、これらに斜交する40～80°跡れ目からなり同角の低密着跡れ目も多く分布する。	35.08	36.00	35.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、跡れ目の多くは砂状化したり、φ5～10mmで細片化する。粘土化部や粘土質は少ないし、10～40°跡れ目と、これらに斜交する40～80°跡れ目からなり同角度の低密着跡れ目も多く分布する。														

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 :H24-D1-5

○ :記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物 ・有機質、変質など を網羅的に記載。 その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状態、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	地質名及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既存の情報・様、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・開系統の割れ目の特徴を持つ区間を示めて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や様々な物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱変部 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、葉理構造、明白状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	記事を削除・変更・追記した理由
138	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土脈をはさむ。	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)
139	42.23	42.74	幅1mm前後の石英脈が斜れ目と平行して多数分布。コア自身も一部粘土化、硬質化している。50～60°斜れ目が平行に分布。	42.23	42.74	幅1mm前後の石英脈が斜れ目と平行して多数分布。コア自身も一部粘土化、硬質化している。50～60°斜れ目が平行に分布。マンガン汚染が目立つ。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため適記した
140	42.52	42.52	55°斜れ目の一部は幅2～4mmで砂状、ないし、φ2～3mm細片化するが、粘土はほぼないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。	42.52	42.52	55°斜れ目の一部は幅2～4mmで砂状、ないし、φ2～3mm細片化するが、粘土は挟まないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む)
141	42.14	43.25	風化により、斜れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する斜れ目は50～60°主体である。粘土42.85m～40°幅1mm、43.21m～30°幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土混は分布しない。	42.14	43.25	風化により、斜れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する斜れ目は50～60°主体である。粘土42.85m～40°幅1mm、43.21m～30°幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土混は分布しない。43.03～43.15m間は幅4～4mmの灰白色粘土を挟む。43.03～43.15m間は幅細な斜れ目にマンガンを伴う。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・書きかけの「粘土」は削除した ・粘土脈が見られるため、「粘土化部は粘土脈は分布しない」を削除し、粘土脈について追記した ・マンガンは周囲と異なる状況であるため追記した
142	42.74	43.25	(変質欄)2ランク	42.74	43.25	(変質欄)3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度がやや強いため変質のランクを3ランクに変更した
143	43.25	45.09	風化と変質で著しく軟化する硬さE/5が主体であるが、部分的に硬さD の岩片が残留する。岩組織は残留するが、斜れ目はほぼ消滅している。指々に幅1～3mmの軟弱な灰白色粘土を挟む状、ないし、網状に含んでいる。	43.25	45.09	風化と変質で著しく軟質化する硬さE/5が主体であるが、部分的に硬さD の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、斜れ目はほぼ消滅している。指々、幅1～3mmの軟質な灰白色粘土を挟む状、ないし、網状に含んでいる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、原岩組織、ほぼ、所々、軟弱⇒軟質)
144	-	-	-	43.58	43.76	マンガン汚染が顕著で、一部、径2～30mmに岩片化している。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため適記した
145	43.80	43.80	60°はせん断性斜れ目で、上盤側に分布する複数の粘土脈が切られている(変位量不明)	43.80	43.80	60°のせん断性斜れ目は、上盤側に分布する複数の粘土脈を止めている。切られている小変位量不明。斜れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。斜れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・60°の斜れ目を積断する岩片や長石の脈品が見られるため「切られている(ず止めている)」に変更し、変位量についての記載を削除した。 ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。 ・斜れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性斜れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
146	44.00	45.09	(変質欄)3ランク	44.00	45.09	(変質欄)4ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した
147	44.30	44.94	硬さDの岩片も多く含む。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
148	45.09	45.82	風化により軟化している。30～50°斜れ目が主体であるが、斜れ目ぞいに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.34m～55°幅1～2mmの黄褐色粘土脈をはさむ。	45.09	45.82	風化により軟質化している。30～50°斜れ目が主体であるが、斜れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.34m～55°幅1～2mmの黄褐色粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、挟む、沿い)
149	45.82	45.89	上端54°、下端55°の直線的でシャープな斜れ目に接され、灰白～灰黄色粘土となる1～10mmの一部粘土化、一部硬さDのGo岩片からなる粘土混り岩片状の変質部。	45.82	45.89	上端54°、下端55°の直線的でシャープな斜れ目に接され、灰白～灰黄色粘土となる1～10mmの一部粘土化、一部硬さDのGo岩片からなる粘土混り岩片状の変質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2～15mmの岩片を25%程度含む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(混じり) ・岩片を含むマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
150	45.89	47.47	風化により一部の斜れ目は消滅ないし、消滅しかかっている。残留する斜れ目は50～70°主体で、斜れ目ぞいに砂状化することが多い。粘土脈の分布はさほどないが、46.00～46.20m間では幅1mm前後の軟弱な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。	45.89	47.47	風化により一部の斜れ目は消滅ないし、消滅しかかっている。残留する斜れ目は50～70°主体で、斜れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布はさほどないが、46.00～46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟弱⇒軟質)
151	46.73	47.12	(コアの形状欄)Vランク	46.73	47.12	(コアの形状欄)IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と比べて斜れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
152	47.20	47.20	50°斜れ目は幅4～7mmで φ2mm石英粒と軟弱な白色粘土をはさむ。	47.20	47.20	50°斜れ目は幅4～7mmで φ2mm石英粒と軟質な白色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)
153	47.20	-	47.20m以深では、50°前後の斜れ目、低密着斜れ目が1～2m間隔で分布し、粘土がこに幅0.5～2mmの軟弱な白色粘土が付着する。	47.20	-	47.20m以深では、50°前後の斜れ目、低密着斜れ目が1～2m間隔で分布し、粘土がこに幅0.5～2mmの軟質な白色粘土が付着する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
154	47.20	47.89	(岩級区分欄)CL	47.20	47.89	(岩級区分欄)D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩級区分の評価が甘りであったため、修正した。
155	47.47	47.89	破砕帯(D-1破砕帯)	47.47	47.89	破砕部(D-1破砕帯)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕帯名は評価であるため削除した
156	47.47	47.48	Hc-1(主せん断面:47.47m) 上端65°、下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟弱な粘土、厚さは3～6mm。	47.47	47.48	Hc-1(最新活動面:47.47m) 上端65°、下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟質な粘土、厚さは3～6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
157	47.48	47.66	Hb 上端65°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ、下端は漸移的である。φ2～3mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGo岩片を含む軟弱な礫質粘土で、粘土は灰黄色(2.5Y 7/2)、石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さ67mm(68°)。	47.48	47.66	Hb 上端65°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ、下端は漸移的である。φ2～3mm石英粒とφ5～10mmの大半が粘土化したGo岩片を含む軟質な粘土質礫状部で灰黄色(2.5Y 7/2)、石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さ67mm(68°)。 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	・礫主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
158	47.66	47.86	Hi 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10～40mmの一部粘土化、一部硬さE、ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰黄色～灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混り岩片状で、色調は灰黄～黒褐色である。厚さは90mm(63°)。	47.66	47.86	Hi 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10～40mmの一部粘土化、一部硬さE、ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰黄色～灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混り岩片状で、色調は灰黄～灰白色である。厚さは90mm(63°)。 やや軟質、含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて全体的な色調を変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(混じり)	
159	47.86	47.89	Hc-2 上端63°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2～10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟弱粘土で、厚さ15mm(60°)。	47.86	47.89	Hb 上端63°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2～10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟質な粘土質礫状部で、厚さ15mm(60°)。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	・礫主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
160	47.86	47.89	(破砕度区分欄)Hc-2	47.86	47.89	(破砕度区分欄)Hb									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した
161	47.66	47.89	(変質欄)3ランク	47.66	47.89	(変質欄)4ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が強いため変質のランクを4ランクに変更した
162	47.89	48.30	風化で斜れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、50～60°の斜れ目と低密着斜れ目が残留し、一部で砂状化～白色、ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)の小間隔に粘土脈をはさむ。また、各斜れ目、低密着斜れ目は軽微なマンガン鉱染受け黒褐色化する。	47.89	48.30	風化で斜れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、50～60°の斜れ目と低密着斜れ目が残留し、一部で砂状化～白色、ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)の小間隔に粘土脈を挟む。また、各斜れ目、低密着斜れ目は軽微なマンガン鉱染受け黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや、挟む、固結⇒硬質など)	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名 :H24-D1-5

○ :記載有り　なし, 該当区間に対象物はあるが, 周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成, 硬の種類及び形態, 含有物, 有機質, 見分などを網羅的に記載。 ・その他, 周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば, 必要に応じて, 硬軟, 湿潤度, 含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理, 葉理, 級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如, コア撹乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は, 既品の種類・粒, 既品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱現等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や焼色物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば, 割れ目の間隔, 開口幅, 割れ目面の色調, 割れ目面のすべり(スリッケンサイド, 条線, 見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈, 凍石脈, 方解石脈等の種類, 幅, 色調, 見かけの傾斜など ・排種縁 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hs,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし, 基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結状構造, 複合面構造, 葉理構造, 網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如, コア撹乱など	
163	48.30	48.61	硬さこと硬くなる, 40°前後の割れ目が主体で, 一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分有し, 両者が交差する48.40～48.45mでは0.5～10mmの岩片に細片化する, 割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく, 粘土膜も分布しない。	48.30	48.61	硬さこと硬くなる, 40°前後の割れ目が主体で, 一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分有し, 両者が交差する48.40～48.45mでは0.5～10mmの岩片に細片化する, 割れ目沿いの砂状化は殆んどなく, 粘土膜も分布しない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
164	48.61	49.50	全体に割れ目が多くなり, コア形状Ⅴである, 40～60°割れ目が主体で, 48.61～48.88mでは割れ目ぞいに砂状化, ないし, φ2～5mm程度に細片化する。また, 49.20m以深では40～60°割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目と交差し, φ5～20mmの岩片に砂状化を伴って, 細片化している。各割れ目は49.37m･40°で白色粘土が付着するのみで, これ以外は粘土化部や粘土膜は分布しない。	48.61	49.38	全体に割れ目が多くなり, コア形状Ⅴである, 40～60°割れ目が主体で, 48.61～48.88mでは割れ目沿いに砂状化, ないし, φ2～5mm程度に細片化する。また, 49.20m以深では40～60°割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目と交差し, φ5～20mmの岩片に砂状化を伴って, 細片化している。各割れ目は49.37m･40°で白色粘土が付着するのみで, これ以外は粘土化部や粘土膜は分布しない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせてコア形状Ⅴが見られる下端深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
165	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Cランク	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Cランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
166	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて割れ目状態, コアの形状, コアの硬さの各ランクを変更した ・上記の変更に伴い, 岩級を変更した
167	49.50	52.75	硬さBと堅硬で, 50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°割れ目が主体で, 同角度の低密着割れ目も一部に分布する。	49.38	52.75	硬さBと堅硬で, 50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°割れ目が主体で, 同角度の低密着割れ目も一部に分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて硬さBの上端深度を変更した ・表現の適正化(同角度)
168	50.63	50.66	割れ目ぞいでは割れ目ぞいにφ3～10mmに細片化するが, 砂状部や粘土化部は伴なわない	50.63	50.66	割れ目沿いでは割れ目沿いにφ3～10mmに細片化するが, 砂状部や粘土化部は伴わない								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化(割れ目沿いでは を削除) ・表現の適正化(沿い, 伴う)
169	50.73	50.75	50～60°割れ目ぞいはやゝ赤色等びる。	50.73	50.85	50～60°割れ目沿いはやや赤色等びる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(50.75⇒50.85) ・表現の適正化(やや, 沿い)
170	51.38	51.42	50～60°割れ目ぞいにやゝ軟化する(硬さC)が, 粘土化や粘土膜はほとまない。	51.38	51.42	50～60°割れ目沿いにやや軟質化する(硬さC)が, 粘土化や粘土膜は伴まない。 51.38mの割れ目沿いは砂状化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや, 沿い, 軟質化, 挟む) ・砂状部の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
171	52.17	52.17	50～60°でやゝ波打つ割れ目ぞいに1～3mmの緑灰色化部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の機縦な金属鉱物が晶出する	52.17	52.17	50～60°でやや波打つ割れ目沿いに1～3mmの緑灰色化部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の機縦な金属鉱物が晶出する								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや, 沿い)
172	52.75	53.58	30～60°割れ目主体で, 割れ目には砂状化部や粘土化部～粘土膜をはさまない。一部, 機縦なクラックが分有するが, 密着度は高く, ハンマー打撃では分離しない。	52.75	53.58	30～60°割れ目主体で, 割れ目には砂状化部や粘土化部～粘土膜を挟まない。一部, 機縦な割れ目が分有するが密着度は高く, ハンマー打撃では分離しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む) ・表現の統一(クラック⇒割れ目)
173	52.91	52.91	50°幅2～4mm石英脈が母岩に密着して連続, 一部, 溶脱部を伴う。	-	-	-								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
174	53.58	54.00	20～60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分有するが, 一部では, ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離～岩片化する。	53.58	54.00	20～60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分有するが, 一部では, ハンマーの打撃で低密着割れ目沿いに分離, 岩片化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い, →⇒,)
175	54.00	54.00	54mで検尺	54.00	54.00	54mで検尺								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コア観察の情報ではないため削除した

余白